



Sun Blade™ X6270 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステム インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7771-10
2009 年 3 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java、Sun Blade は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPENLOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

予備または交換用の CPU の使用は、米国の輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. オペレーティングシステムのインストールの計画 1
 - サポート対象オペレーティングシステム 2
 - インストール済みの Solaris 10 イメージ 3
 - インストールの前提条件 3
 - インストール方法 5
 - コンソール出力 5
 - インストールブートメディア 6
 - インストールターゲット 8
 - 新規インストールの BIOS 設定の確認 9
 - 作業を開始する前に 10
 - ▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集 10
2. Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール 15
 - Windows Server 2003 インストールのタスクマップ 16
 - ブート時デバイスドライバ 17
 - 配布用大容量記憶装置ドライバの準備 18
 - デバイスドライバ用のフロッピーディスクの作成 18
 - ▼ デバイスドライバインストール用のフロッピーディスクの作成 19

デバイスドライバ用のフロッピーイメージの準備	21
▼ デバイスドライバインストール用のフロッピーイメージの準備	21
ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2003 のインストール	22
▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2003 のインストール	23
PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール	30
作業を開始する前に	31
▼ PXE を使用した Windows Server 2003 のインストール	31
3. Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール	37
Windows Server 2008 のインストールの作業マップ	38
ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2008 のインストール	39
▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2008 のインストール	39
PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 のインストール	43
作業を開始する前に	44
▼ PXE を使用した Windows Server 2008 のインストール	44
4. インストール後	47
サーバー固有ドライバのダウンロード	47
▼ サーバー固有ドライバのダウンロード	48
サーバー固有デバイスドライバのインストール	49
▼ サーバー固有デバイスドライバのインストール	49
追加ソフトウェアのインストール	52
▼ 追加ソフトウェアのインストール	54
Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft の IPMI System Management ドライバの設定	55
▼ Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft の IPMI System Management ドライバの設定	56
Wake On LAN のサポートを有効にする	57
TPM のサポートの設定	57

A.	WIM イメージまたは RIS イメージへの Sun Blade Server ドライバの組み込み	59
	必要なドライバの確認	60
	WIM イメージへのドライバの追加	60
	開始前のご注意	61
	▼ WIM イメージにドライバを追加するには	61
	RIS イメージへのドライバの追加	63
	開始前のご注意	64
	▼ RIS イメージにドライバを追加するには	64
	索引	69

はじめに

このマニュアルでは、Windows Server 2003 または Windows Server 2008 オペレーティングシステムを Sun Blade X6270 サーバーモジュールにインストールする手順について説明します。

製品のアップデート

Sun Blade™ X6270 サーバーモジュールに対してダウンロード可能な製品アップデートについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/download/>

「Hardware Drivers」セクションを探して、「x64 Servers & Workstations」をクリックします。Sun Blade X6270 サーバーモジュールのサイトには、ファームウェア、ドライバ、および CD-ROM ISO イメージのアップデートがあります。

関連マニュアル

次の表に記載されているドキュメントは、次の Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6270>

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Blade X6270 サーバーモジュールご使用にあたって』	サーバーモジュールに関する最新情報	820-7777	PDF HTML
『Sun Blade X6270 サーバーモジュールご使用の手引き』	サーバーモジュールを設定するための基本的なインストール情報	820-7762	PDF 印刷版
『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』	サーバーモジュールを設定するための詳細なインストール情報	820-7765	PDF HTML 印刷版 (別売り)
『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』	Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステム用のインストール手順	820-7768	PDF HTML
『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』	Windows Server オペレーティングシステム用のインストール手順	820-7771	PDF HTML
『Linux および Windows 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』	Windows または Linux オペレーティングシステムのインストール時に Sun Installation Assistant (SIA) を使用する手順	820-6352	PDF HTML
『Sun Blade X6270 Server Module Service Manual』	サーバーモジュールを管理およびアップグレードするための情報および手順	820-6178	PDF HTML
『X64 Servers Utilities Reference Manual』	x64 サーバーおよびサーバーモジュールに共通のアプリケーションおよびユーティリティを使用するための情報	820-1120	PDF HTML
『Sun x64 サーバー診断ガイド』	x64 サーバーで提供される診断ソフトウェアツールの使用方法に関する情報	820-7813	PDF HTML

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーガイド』	ILOM をサポートするサーバーおよびサーバーモジュールに共通の ILOM 機能およびタスク	820-2698	PDF HTML
『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 補足マニュアル Sun Blade X6270 サーバーモジュール』	サーバーモジュールに固有の ILOM 情報	820-7774	PDF HTML
『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』	すべての Sun ハードウェアシステムについての、多言語対応ハードウェアの安全性とコンプライアンスに関する情報	816-7190	印刷版

これらのドキュメントの一部については、上記の Web サイトでフランス語、簡体字中国語、および日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
Sun のドキュメント	http://docs.sun.com
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
AaBbCc123	コマンド行の変数部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm filename と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define` \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』、Part No. 820-7771-10

第1章

オペレーティングシステムのインストールの計画

この章では、Sun Blade X6270 サーバーモジュールへのオペレーティングシステムのインストールを適切に計画するために必要な情報を説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- [2 ページの「サポート対象オペレーティングシステム」](#)
- [3 ページの「インストールの前提条件」](#)
- [5 ページの「インストール方法」](#)
- [9 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」](#)

サポート対象オペレーティングシステム

Sun Blade X6270 サーバーモジュールは、次のオペレーティングシステムまたはその後継のオペレーティングシステムでのインストールと使用をサポートしています。

表 1-1 サポート対象オペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポート対象バージョン	詳細
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (R2 SP2 または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (R2 SP2 または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Standard Edition (32 ビットまたは 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Enterprise Edition (32 ビットまたは 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Datacenter Edition (32 ビットまたは 64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• 15 ページの「Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール」• 37 ページの「Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール」
Linux	<ul style="list-style-type: none">• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.7 (32 ビットおよび 64 ビット)• RHEL 5.3 (64 ビット)• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP2(64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド
Solaris [Solaris]	<ul style="list-style-type: none">• Solaris 10 10/08	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド
Open Solaris	<ul style="list-style-type: none">• OpenSolaris 2008.11	<ul style="list-style-type: none">• http://jp.opensolaris.org/
VMware	<ul style="list-style-type: none">• VMware ESX 3.5 Update 4• VMware ESXi 3.5 Update 4	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド

インストール済みの Solaris 10 イメージ

Solaris 10 イメージを発注している場合は、ハードディスクドライブにインストールされて出荷されています。このドライブに別のオペレーティングシステムをインストールする必要がある場合は、次のいずれかを選択できます。

- ローカルドライブを区分化して、Solaris 10 OS イメージを削除します。

または

- ローカルドライブを区分化して、デュアルブートオペレーティングシステム設定をサポートします。

本書の後半で説明する Windows または Linux オペレーティングシステムのインストール手順で、インストールプログラムの適切な場所ごとに手順を説明します。ここでドライブを区分化して Solaris 10 イメージを削除するか、デュアルブートオペレーティングシステム設定をサポートできます。

注 – Solaris 10 のインストール済み OS イメージを設定するには、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Installation Guide』の Solaris 10 OS インストール済みの章を参照してください。

インストールの前提条件

オペレーティングシステムをインストールする前に次の要件を満たしてください。

表 1-2 OS インストールの前提条件

要件	必須または省略可能	詳細
サーバーモジュールをインストールし、シャーシで電源を投入します。	必須	<ul style="list-style-type: none">『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-7765)
サーバー上の SP ネットワーク管理ポートは、IP アドレスで設定されます。	必須	<ul style="list-style-type: none">『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-7765) または <ul style="list-style-type: none">『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698)
サーバーモジュール SP にインストールされた ILOM ファームウェアのバージョンは、シャーシ管理モジュール (Chassis Management Module, CMM) にインストールされた ILOM ファームウェアのバージョンに一致します。 注 – ILOM ファームウェアのバージョンは 2.0.3.10 以降をお勧めします。	推奨	<ul style="list-style-type: none">『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698)の「Update Firmware」の章 または <ul style="list-style-type: none">Sun Blade X6270 サーバーモジュール用サーバーソフトウェアのダウンロードは次の URL で入手できます。 http://www.sun.com/servers/x64/x6270/downloads.jsp

表 1-2 OS インストールの前提条件 (続き)

要件	必須または省略可能	詳細
インストールを実行するためのコンソールオプションとメディアオプション、およびインストールターゲットを選択します。	必須	<ul style="list-style-type: none"> 5 ページの「インストール方法」
BIOS 設定ユーティリティーが出荷時のデフォルトに設定されていることを確認します。	推奨* *ローカルディスク ライブ OS インストールターゲットの場合	<ul style="list-style-type: none"> 9 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) (REM または FEM など) が設定された SATA または SAS ディスクドライブ上で RAID を設定するには、HBA に付属のドキュメントを参照してください。	必須*	<ul style="list-style-type: none"> サーバーのディスクドライブを追加または交換する手順については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-7765) を参照してください。 Sun™ Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers (820-6350)
該当するベンダーのオペレーティングシステムインストールドキュメントを収集します。	推奨	<ul style="list-style-type: none"> 該当するオペレーティングシステムベンダーのドキュメント <ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows 2003 製品ドキュメント http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2003/proddoc/default.msp Mirosoft Windows 2008 製品ドキュメント http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en/us/product-documentation.aspx
注 - オペレーティングシステムベンダーのドキュメントは、本書の指示とあわせて使用することをお勧めします。		
サーバーに付属のツールとドライバの CD を用意します。	必須	<ul style="list-style-type: none"> Sun Blade X6270 サーバーモジュール ツールとドライバの DVD
注 - OS のインストールにデバイスドライバが必要な場合、デバイスドライバはツールとドライバの DVD で提供されます。		<p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> Sun Blade X6270 サーバーモジュール用のツールとドライバの DVD のダウンロードバージョンは、次の URL から入手できます。 http://www.sun.com/servers/x64/x6270/downloads.jsp
サポートされるオペレーティングシステムのソフトウェアとパッチに関する最新情報は、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Product Notes』を参照してください。	推奨	<ul style="list-style-type: none"> Sun Blade X6270 サーバーモジュール Product Notes (820-3972)

インストール方法

使用しているインフラストラクチャーで最適なインストール方法を判断するには、次の節に要約したオプションおよび要件を検討してください。

- 5 ページの「コンソール出力」
- 6 ページの「インストールブートメディア」
- 8 ページの「インストールターゲット」

コンソール出力

表 1-3 に、オペレーティングシステムのインストールの入出力に使用するコンソールを示します。*

表 1-3 OS インストールを実行するためのコンソールオプション

Console	説明	設定の要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続して、OS のインストールおよびサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• シリアルコンソール• VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)	<ol style="list-style-type: none">1. ドングルケーブルを使用して、ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-7765)の「Attaching Devices to the Server」を参照してください。2. ILOM プロンプトで、ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。3. シリアルコンソール接続のみの場合は、start/SP/console と入力して、ホストシリアルポートへの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 サーバー SP への接続の確立の詳細については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698)を参照してください。

表 1-3 OS インストールを実行するためのコンソールオプション (続き)

Console	説明	設定の要件
リモートコンソール*	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立して、リモートコンソールから OS のインストールとサーバーの管理を実行できます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 • シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698)を参照してください。 2. リモートコンソールとサーバー SP の接続を確立します。 <ul style="list-style-type: none"> • Web ベースのクライアント接続の場合は、次のステップを実行します。1) Web ブラウザでサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) ILOM Web インタフェースにサインインします。3) Sun ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) デバイスメニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 • SSH クライアント接続の場合は、次のステップを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します (ssh root@ipaddress)。2) ILOM にログインします。3) start /SP/console と入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。 <p>ILOM SP へのリモート接続の確立方法または Sun ILOM リモートコンソールの使用方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698)を参照してください。</p>

インストールブートメディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールは、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートして開始できます。表 1-4 に、サポートされるメディアソースと、各ソースの設定の要件を示します。

表 1-4 OS インストールを実行するためのブートメディアオプション

インストールメディア	説明	設定の要件
ローカルブートメディア	<p>ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外部ストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされる OS ローカルブートメディアソースには次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM インストールメディアおよびフロッピーデバイスドライブメディア (該当する場合) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバーに組み込み型のストレージデバイスがない場合は、ドングルケーブルで USB コネクタを使用して、適切なストレージデバイスをサーバーモジュールのフロントパネルに接続します。 2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-7765)の「Attaching Devices to the Server」を参照してください。

表 1-4 OS インストールを実行するためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定の要件
リモートブートメディア	<p>リモートメディアでは、ネットワーク上でインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上でインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされる OS リモートメディアソースには次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM インストールメディアおよびフロッピーデバイスドライブメディア (該当する場合) • CD/DVD-ROM ISO インストールイメージおよびフロッピー ISO デバイスドライブメディア (該当する場合) • 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要です) 	<p>リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次のステップを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM の場合、組み込み型または外部の CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 • CD/DVD-ROM ISO イメージの場合、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに利用できることを確認します。 • デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合、ISO イメージ (該当する場合) がネットワーク共有された場所またはサムドライブ上ですぐ利用できることを確認します。 • デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合、フロッピーメディアを外部フロッピードライブに挿入します。 2. サーバー ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。 <p>詳細については、表 1-3 の Web ベースのクライアント接続の設定の要件を参照してください。</p> 3. Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの「デバイス」メニューで、次のようにブートメディアの場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM ブートメディアでは、「CD-ROM」を選択します。 • CD/DVD-ROM ISO イメージブートメディアでは、「CD-ROM Image」を選択します。 • フロッピーデバイスドライブブートメディア (該当する場合) では、「Floppy」を選択します。 • フロッピーイメージデバイスドライブブートメディア (該当する場合) では、「Floppy Image」を選択します。 <p>Sun ILOM リモートコンソールの詳細については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。</p>

表 1-4 OS インストールを実行するためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定の要件
リモートブートメディア (続き)	<p>注 - 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると、複数のシステム間で設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、PXE (Pre-boot eXecution Environment) テクノロジーを使用して、クライアントはオペレーティングシステムなしでオペレーティングシステムのインストールを実行する自動インストールサーバーにリモートでブートできます。</p>	<p>PXE を使用してインストールを実行するには、次のステップを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PXE ブート経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを設定します。 2. OS インストールメディアを PXE ブートで利用できるようにします。 自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次のような自動 OS インストールイメージを作成する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • Solaris JumpStart イメージ • RHEL KickStart イメージ • SLES AutoYaST イメージ • Windows RIS または WDS イメージ インストール設定プロセスの自動化の詳細については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。 3. インストールメディアをブートするには、一時起動デバイスとして PXE ブートインタフェースカードを選択します。詳細については、この章で後述する、該当する PXE ベースのオペレーティングシステムのインストール手順を参照してください。

インストールターゲット

表 1-5 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストールターゲットを示します。

表 1-5 OS インストールのインストールターゲット

インストールターゲット	説明	設定の要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD)	オペレーティングシステムは、サーバーモジュールに設置された任意のハードディスクを選択してインストールできます。	<ul style="list-style-type: none"> • サーバーに HDD または SSD が適切に設置され、電源が投入されていることを確認してください。 HDD または SSD の設置と電源投入については、サーバーに付属のインストールガイドまたはサービスマニュアルを参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • 表 1-1 に一覧表示されるすべてのオペレーティングシステム

表 1-5 OS インストールのインストールターゲット (続き)

インストールターゲット	説明	設定の要件	サポートされる OS
ファイバチャネル (Fibre Channel, FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) が付属したシャーシシステムの場合は、オペレーティングシステムを外部 FC ストレージデバイスにインストールすることを選択できます。	<ul style="list-style-type: none"> FC PCI e HBA がシャーシに適切に設置され、稼働していることを確認してください。 シャーシに HBA を設置する方法については、『Sun Blade X6270 Server Module Service Manual』(820-6178) を参照してください。 ホストでストレージを表示するには、SAN を設置および設定してください。手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 表 1-1 に一覧表示されるすべてのオペレーティングシステム

新規インストールの BIOS 設定の確認

ハードディスクドライブに新しくインストールするすべてのオペレーティングシステムについて、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
- システム日付
- ブート順序

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。(F2 により) BIOS 設定ユーティリティで行ったすべての変更は、次に変更するまで永続的なものであることに注意してください。

ヒント – 必要に応じて、BIOS 起動時に F8 を押して、一時起動デバイスを指定できます。一時起動デバイスの設定は、現在のシステムブートでのみ有効であることに注意してください。一時起動デバイスからシステムをブートしたあとは、(BIOS で) F2 により指定した常時起動デバイスの設定が有効になります。

作業を開始する前に

BIOS ユーティリティにアクセスする前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- 電源が投入されたシステムシャーシにサーバーモジュールが適切に設置されていること。詳細については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-7765)を参照してください。
- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) が搭載されている。
- HDD がサーバーに適切に設置されている。詳細については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-7765)を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細については、5 ページの「[コンソール出力](#)」を参照してください。

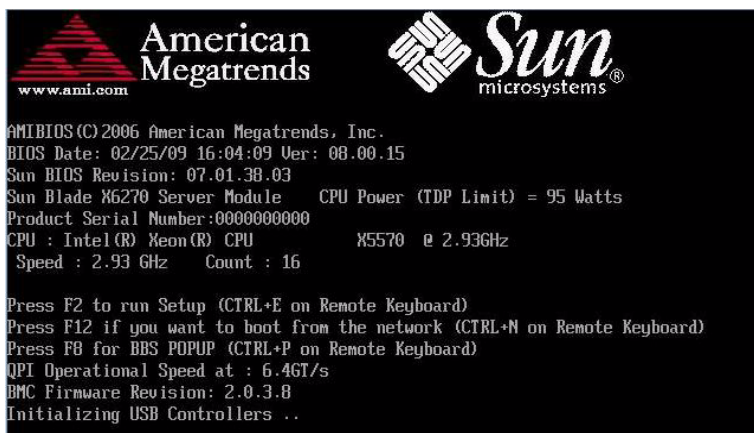
▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源をリセットします。

サーバーの電源をリセットするには、次のようにします。

- **ILOM Web インタフェース**で、「Remote Power Control」タブの「Reset」を選択します。
- **ローカルサーバー**からは、サーバーモジュールのフロントパネルで電源ボタンを押して、サーバーモジュールの電源を切断します。その後、もう一度電源ボタンを押して、サーバーモジュールの電源を投入します。
サーバーの電源の投入または切断の詳細については、サーバーのサービスマニュアルを参照してください。
- **サーバーモジュール SP の ILOM CLI**からは、`reset /SYS` と入力します。
- **CMM の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /CH/BLn/SYS`
ここで、*n* はシャーシ内のサーバーモジュールのスロット番号です。

BIOS 画面が表示されます。



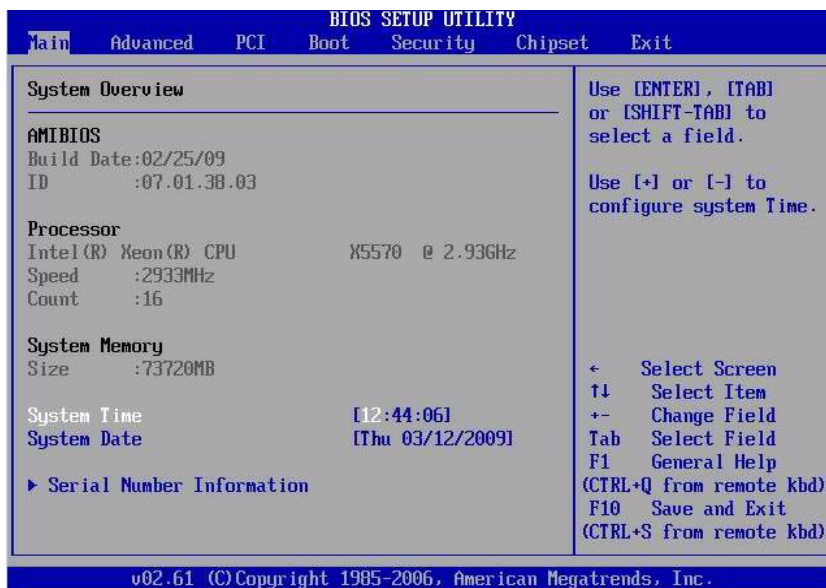
```
www.ami.com
American Megatrends
Sun
microsystems

AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 02/25/09 16:04:09 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.3B.03
Sun Blade X6270 Server Module CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number: 0000000000
CPU : Intel(R) Xeon(R) CPU X5570 @ 2.93GHz
Speed : 2.93 GHz Count : 16

Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.3.8
Initializing USB Controllers ..
```

2. BIOS 画面のプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

すぐに BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



3. 出荷時のデフォルトが設定されていることを確認するには、次の手順を実行します。

- a. F9 を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。

「了解」を選択してこの操作を続行するか、「取消し」を選択してこの操作を取り消すかを確認するメッセージが表示されます。

- b. メッセージで「了解」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システムの時刻または日付に対応する値を編集します。

- a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を変更します。

- b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。

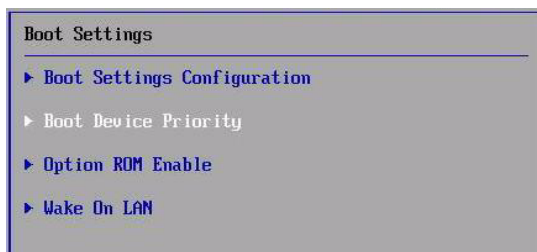
- プラス (+) を使用すると、現在表示されている値が増加します。
- マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します。
- Enter を使用すると、カーソルが次の値フィールドに移動します。

5. ブート設定にアクセスするには、「ブート」メニューを選択します。



「Boot Settings」メニューが表示されます。

6. 「Boot Settings」メニューで、下矢印キーを使用して「Boot Device Priority」を選択して、Enter を押します。

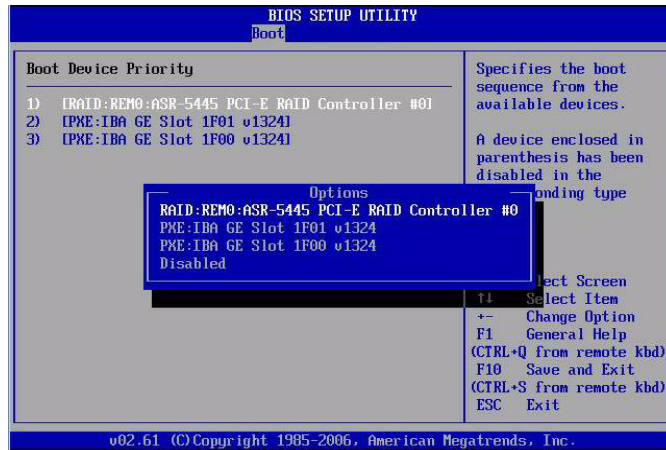


「Boot Device Priority」メニューに既知の起動デバイスの順序が一覧表示されます。リストの最初のデバイスはブートの優先順位がもっとも高いデバイスです。

7. 「Boot Device Priority」メニューで次の手順を実行して、リストの最初の起動デバイスエントリを編集します。
 - a. 上下の矢印キーを使用してリストの最初のエントリを選択し、Enter を押します。
 - b. 「オプション」画面で、上下の矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter を押します。

画面に一覧表示されるブートオプションは、次のサンプル画面に表示されているオプションと異なる場合があることに注意してください。

注 – 変更するデバイスエントリごとにステップ 7a および 7b を繰り返して、リストのその他のデバイスについてブートの順序を変更できます。



ヒント – 「ブート」メニューおよび「オプション」メニューに一覧表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 を押します。

注 – Sun ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトランプされます。コンソールの一番上で使用できる「キーボード」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

または、「終了」メニューで「保存する」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了するかどうかを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「了解」を選択して、Enter を押します。

第2章

Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール

この章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステム (Operating System, OS) のインストールについて説明します。

注 – ストレージドライブ上に RAID セットを作成する場合、OS をインストールする前にドライブ上に RAID セットを作成することをお勧めします。詳細は、『Sun Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』(820-6350) を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 16 ページの「Windows Server 2003 インストールのタスクマップ」
- 17 ページの「ブート時デバイスドライバ」
- 18 ページの「配布用大容量記憶装置ドライバの準備」
- 22 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2003 のインストール」
- 30 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール」

Windows Server 2003 インストールのタスクマップ

一連のタスクとして定義されているインストールプロセスを確認するには、表 2-1 を使用してください。この表では、必須作業について示し、その作業の実行手順へのリンクを提示します。

表 2-1 Windows 2003 インストールのタスクマップ

手順	作業	説明	関連トピック
1	インストールの前提条件を確認する	サーバーにオペレーティングシステムをインストールする場合に適用される要件がすべて満たされていることを確認します。	<ul style="list-style-type: none">• 3 ページの表 1-2 「OS インストールの前提条件」
2	インストール方法を選択します。	使用しているインフラストラクチャーのニーズを満たすインストール方法を評価し、選択します。	<ul style="list-style-type: none">• 5 ページの「インストール方法」
3	BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認する	オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、BIOS が出荷時のデフォルト設定に設定されていることを確認します。	<ul style="list-style-type: none">• 9 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	Windows インストールメディアを集める	Windows OS は、CD および DVD メディアと、Windows OS のインストールに必要なマニュアルで提供されています。	<ul style="list-style-type: none">• Windows 2003 用のメディアは http://www.microsoft.com でダウンロードまたは注文できます。
5	サーバー固有のドライバをダウンロードするか、Tools and Driver CD からドライバを入手する	システムによっては、一部のドライバがブート時にインストールされている必要があります。このようなドライバは、Sun のダウンロードサイトまたは Tools and Drivers CD から入手できます。	<ul style="list-style-type: none">• 49 ページの「サーバー固有デバイスドライバのインストール」
6	大容量記憶装置ドライバを準備する	Windows 2003 のインストールに必要な大容量記憶装置ドライバのフロッピーを作成します。	<ul style="list-style-type: none">• 18 ページの「配布用大容量記憶装置ドライバの準備」
7	Windows OS のインストールを実行する	この章の説明に従って、Windows 2003 オペレーティングシステムをインストールします。	<ul style="list-style-type: none">• 22 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2003 のインストール」• 30 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール」

表 2-1 Windows 2003 インストールのタスマップ (続き)

手順	作業	説明	関連トピック
8	必要に応じて、インストール後にドライバおよびインストール後追加ソフトウェアをインストールする	Windows オペレーティングシステムにシステムのサポートに必要なデバイスドライバが含まれていない場合、追加のデバイスドライバのインストールが必要な場合があります。 システムに RAID コントローラが含まれる場合、コントローラをサポートするための追加ソフトウェアのインストールが必要な場合があります。	• 47 ページの「インストール後」
9	該当する場合は Wake On LAN 機能を有効にする	必要な場合は、このサーバーの Wake On LAN 機能を有効にできます。	• 47 ページの「インストール後」

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。この節では、Windows Server 2003 メディアのブート、ブート時のドライバのインストール (必要な場合)、およびドライブのパーティション分割の手順について説明します。その他の情報については、<http://www.microsoft.com/windowsserver2003/proddoc/default.mspx> にある Microsoft の Windows 2003 製品マニュアルを参照してください。

ブート時デバイスドライバ

表 2-2 は、Windows Server 2003 のインストール中のブート時にインストールが必要になる場合があるデバイスドライバです。

表 2-2 ブート時にインストールする Windows 2003 Server 固有のドライバ

デバイスドライバ	説明
Intel SATA ドライバ	ローカル SATA ハードディスクドライブ (HDD) にインストールする場合は、ブート時に Intel SATA デバイスドライバが必要です。
LSI SAS/SATA RAID ドライバ	ローカル SAS または SATA ハードディスクドライブ (HDD) にインストールする場合は、ブート時に LSI SAS/SATA デバイスドライバが必要です。
Sun StorageTek SAS/SATA RAID ドライバ	ローカル SAS または SATA ハードディスクドライブ (HDD) にインストールする場合は、ブート時に Sun StorageTek SAS/SATA デバイスドライバが必要です。
QLogic SAN ドライバ	インストールターゲットが QLogic FC Storage Area Network (SAN) デバイスの場合は、QLogic ファイバチャネル (FC) デバイスドライバをインストールブート時にインストールしてください。
Emulex SAN ドライバ	インストールターゲットが Emulex FC SAN デバイスの場合は、Emulex FC デバイスドライバをインストールブート時にインストールしてください。

表 2-2 に一覧表示されているブート時デバイスドライバは、サーバーに付属する Tools and Drivers CD に収められています。Tools and Drivers CD がいない場合は、Sun のダウンロードサイトから同じドライバをダウンロードできます。ブート時デバイスドライバを含むサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法については、47 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」を参照してください。

配布用大容量記憶装置ドライバの準備

この節では、ローカルまたはリモートの Windows 2003 インストールに必要な大容量記憶装置ドライバメディアを準備する手順について説明します。

大容量記憶装置ドライバはフロッピーディスクまたはフロッピーイメージのどちらかを選択して準備できます。これらのオプションが説明されている節については、表 2-3 を参照してください。

表 2-3 大容量記憶装置ドライバメディアのオプション

メディアオプション	手順記載セクション
フロッピーディスクローカルまたはリモート	18 ページの「デバイスドライバ用のフロッピーディスクの作成」
フロッピーイメージ	21 ページの「デバイスドライバ用のフロッピーイメージの準備」

デバイスドライバ用のフロッピーディスクの作成

フロッピーディスクを作成して必要な Windows 2003 デバイスドライバを格納する場合は、次の手順を実行します。

作業を開始する前に

フロッピーディスクを作成する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- フロッピーディスクの作成に使用するシステムに、USB フロッピードライブが接続されていること。
- フロッピーディスクメディアが使用できること。
- FloppyPack_x_x_x.zip ファイルが使用できること。

FloppyPack_x_x_x.zip ファイルは、Tools and Drivers CD から入手するか、または Sun ダウンロードサイトからダウンロードできます。Sun からのダウンロード方法については、47 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」を参照してください。

注 - _x_x_x の数字は、パッケージのバージョンを表します (例: FloppyPack_1_1_4.zip)。

▼ デバイスドライバインストール用のフロッピーディスクの作成

Sun からは、フロッピーディスク作成用の Sun 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードが提供されています。Sun 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. Sun 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードを、以下のいずれかのメディアソースから起動します。

- **Tools and Drivers CD.**

次の手順を実行して、ウィザードを起動します。

- a. ツールとドライバの CD を、CD/DVD ドライブを搭載した Windows システムに挿入します。

CD が自動的に開始します。

- b. メインメニューで、「Make a Windows Server 2003 Mass Storage Driver Disk」をクリックしてから、**手順 2**に進みます。

大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードの開始画面が表示されます。

または

- **FloppyPack_x_x_x.zip file (Sun ダウンロードサイトから入手).**

次の手順を実行して、ファイルをコピーして抽出し、ウィザードを開始します。

- a. Microsoft Windows ソフトウェアを実行している、フロッピードライブを搭載したシステムで、FloppyPack_x_x_x.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。

- b. Windows エクスプローラを起動します。

- c. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。

- d. FloppyPack_x_x_x.zip を選択します。

- e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

注 – 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を展開します。展開後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

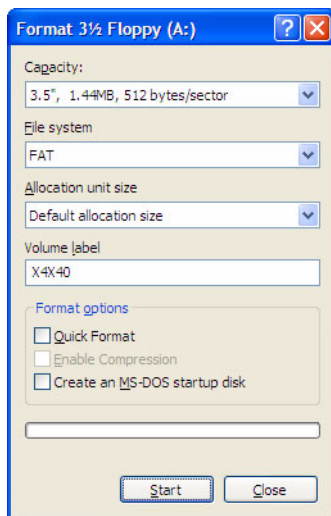
- f. Windows エクスプローラを起動し、展開したファイルが入ったフォルダに移動します。

- g. Windows のエクスプローラで、展開したファイルが入ったディレクトリを開いて、mkfloppy.exe のウィザードをダブルクリックしてから、ステップ 2 に進みます。

大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードの開始画面が表示されます。



2. 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードの開始画面で、以下を行います。
 - a. 「次へ」をクリックし、ウィザードの指示に従ってサーバー用の大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクを作成します。
 - b. プロンプトが出されたら、空のフロッピーディスクをドライブ A: に挿入します。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログが表示されます。



3. 「フォーマット - 3.5 FD (A:)」ダイアログで、「開始」ボタンをクリックしてフォーマットを開始します。
4. フロッピーディスクのフォーマットが完了したら、「閉じる」ボタンをクリックします。
大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードが表示されます。
5. 大容量記憶装置ドライバディスク作成ウィザードで、「次へ」をクリックし、ウィザードの指示に従って、大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクの作成を完了します。
6. [22 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2003 のインストール」](#)に進みます。

デバイスドライバ用のフロッピーイメージの準備

フロッピーイメージメディアを使用して必要な Windows 2003 デバイスドライバをインストールする場合は、次の手順を実行します。

作業を開始する前に

以下の手順を実行してデバイスドライバインストール用のフロッピーイメージを準備する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- Tools and Drivers CD から、または [47 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」](#)の説明に従って Sun のダウンロードサイトから、FloppyPack_x_x_x.zip ドライバパッケージを入手してあること。
- Sun ILOM リモートコンソールをホストしているシステムが、FloppyPack_x_x_x.zip ドライバパッケージにローカルまたはネットワークでアクセスできること。

▼ デバイスドライバインストール用のフロッピーイメージの準備

次の手順に従って、インストール用のデバイスドライバを含むフロッピーイメージファイルを準備します。

1. 次のいずれかのメディアソースから、デバイスドライバを含むフロッピーイメージファイル入手します。
 - ツールとドライバの CD。
次の手順を実行して、フロッピーディスクにアクセスします。
 - a. Sun ILOM リモートコンソールシステムに CD を挿入します。
 - b. 次のディレクトリに移動します。
`windows\w2k3\packages\FloppyPack\image`
 - c. [手順 2](#)に進みます。

- FloppyPack.zip ファイル (Sun ダウンロードサイトから)
 - a. FloppyPack_x_x_x.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - b. Windows エクスプローラを起動します。
 - c. ダウンロードしたファイルを保存した一時フォルダに移動します。
 - d. FloppyPack_x_x_x.zip を選択します。
 - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックして、新しい空のフォルダに展開します。

注 – 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を展開します。展開後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- f. 展開されたファイルが存在する image フォルダに移動した後、ステップ 2 に進みます。
2. Sun ILOM リモートコンソールシステムが Windows のインストール中にアクセスできるローカルまたはネットワークの共有場所に、適切なフロッピーイメージファイルをコピーします。

Sun ILOM リモートコンソールでイメージファイルのメディアリダイレクションを有効にする方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。
3. [22 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2003 のインストール」](#)に進みます。

ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2003 のインストール

以下の手順では、ローカルまたは遠隔メディアから Windows 2003 オペレーティングシステムをブートする方法を説明します。次のいずれかのソースから Windows インストールメディアをブートするものとします。

- Windows CD または DVD (内部または外部 CD/DVD)
- Windows 2003 ISO イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[30 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール」](#)の手順を参照してください。

作業を開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を確認してください。

- オペレーティングシステムのインストールに適用される前提条件がすべて満たされているようにしてください。これらの前提条件についての詳細は、[3 ページの表 1-2 「OS インストールの前提条件」](#) を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール方法 (例: コンソール、ブートメディア、インストールターゲット) を選択して確立しておくことをお勧めします。これらのセットアップ要件については、[5 ページの「インストール方法」](#) を参照してください。

この手順を完了したあとで、[47 ページの「インストール後」](#) で説明されているインストール後の作業を行う必要があります。

▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2003 のインストール

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

たとえば、次のように入力します。

- **Distribution CD/DVD の場合** – Windows 2003 配布メディア (CD ラベル #1 または 1 枚の DVD) をローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合** – ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

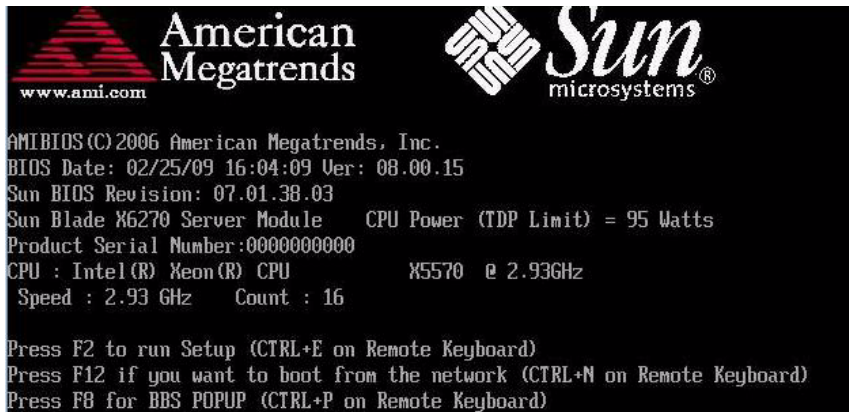
インストールメディアをセットアップする方法についての詳細は、[6 ページの表 1-4 「OS インストールを実行するためのブートメディアオプション」](#) を参照してください。

2. 電源サイクルをリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェース** で、「Remote Power Control」タブの「Reset」を選択します。
- **ローカル サーバー** で、サーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して電源を切り、再び電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI** で、次のように入力します。`reset /SYS`
- **CMM の ILOM CLI** で、次のように入力します。`reset /CH/BLn/SYS`
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。

BIOS 画面が表示されます。



- BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP」というメッセージが表示されたら、F8 を押して起動デバイスを選択します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

注 - インストールで表示される画面は、サーバーにインストールされているディスクコントローラの種類によって異なる場合があります。



4. 「Please Select Boot Device」メニューで、選択した Windows メディアインストール方法に基づいて起動デバイスを選択し、Enter を押します。
たとえば、次のように入力します。
 - Windows ローカル配布メディアを使用することを選択した場合は、「CD/DVDW」を選択します。
 - ILOM リモートコンソールメソッドを使用することを選択した場合は、「AMI Virtual CDROM」を選択します。
5. 「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。
Windows のセットアッププロセスが開始します。
6. 「Windows Setup」ダイアログの下部に次のメッセージが表示されたら、すばやく F6 を押します。
Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver. (サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください)

注 - このプロンプトが画面に表示されているのは約 5 秒で、見逃すことがよくあります。このプロンプトが表示されている間に F6 を押さないと、追加のドライバを指定するダイアログが表示されず、インストールでエラーが発生します。その場合は、インストールを実行しているサーバーを再起動し、[手順 3](#)に戻ってください。

F6 を押すと、セットアッププロセスが続行して次のダイアログが表示されます。このダイアログでは、追加の大容量記憶装置デバイスを指定できます。



```
Windows Setup
-----
Setup will load support for the following mass storage device(s):

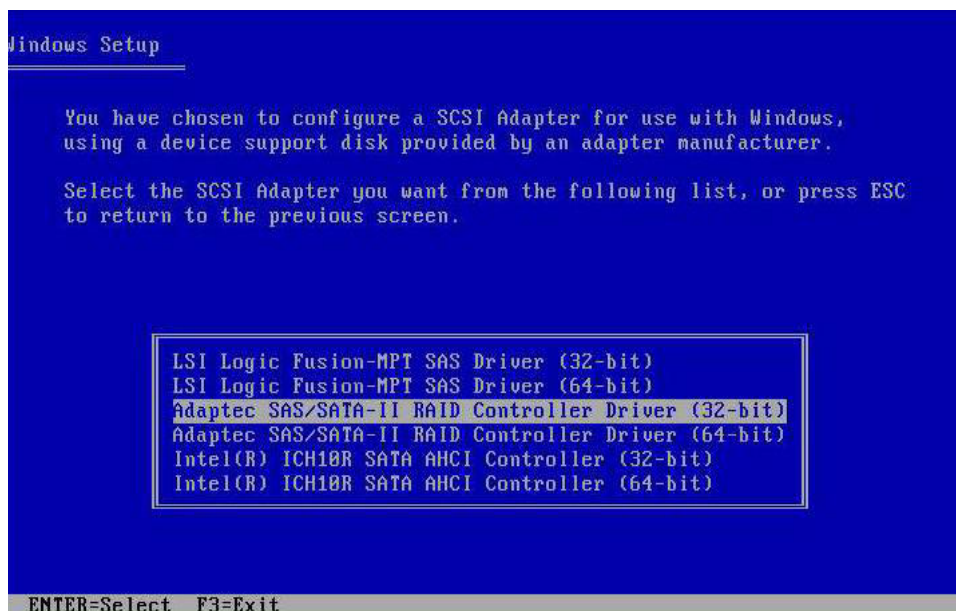
  Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller Driver (32-bit)

* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special
  disk controllers for use with Windows, including those for
  which you have a device support disk from a mass storage device
  manufacturer, press S.

* If you do not have any device support disks from a mass storage
  device manufacturer, or do not want to specify additional
  mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device  ENTER=Continue  F3=Exit
```

7. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、次のように大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。たとえば、次のように入力します。
 - ローカルのフロッピーディスクの場合 – ローカルフロッピーディスクを使用している場合は、大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクを選択します。
 - 遠隔のフロッピーディスクの場合 – フロッピードライブが接続された Sun ILOM リモートコンソールシステムを使用している場合は、大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクを選択します。
 - フロッピーイメージの場合 – Sun ILOM リモートコンソールシステムを使用している場合は、適切なフロッピーイメージファイルを選択します。
8. **s** を押して、追加のデバイスを指定します。
使用可能なドライバのリストが表示されます。



注 – 表示されるダイアログは、インストールしている大容量記憶装置コントローラドライバの種類によって異なります。

9. 「Select Adapter」ダイアログで、インストールしている適切な大容量記憶装置コントローラドライバのバージョン (Windows 32 ビットまたは 64 ビット) を選択し、Enter を押します。
たとえば、次のように入力します。
 - LSI ベースの統合 RAID コントローラを使用するサーバーの場合は、「LSI Logic Fusion - MPT SAS Driver (32-bit or 64-bit)」を選択します。

- **Adaptec** ベースの統合 RAID コントローラを使用するサーバーの場合は、「SG-XPCTESAS-R SAS/SATA-II RAID Driver (32-bit or 64-bit)」を選択します。
- **Intel** ベースの 統合ディスクコントローラを使用するサーバーの場合は、「Intel(R) ICH10R SATA AHCI Controller (32-bit or 64-bit)」を選択します。

指定された大容量記憶装置デバイスのサポートをロードすることを伝える次のようなダイアログが表示されます。

```
Windows Setup
-----
Setup will load support for the following mass storage device(s):

LSI Fusion-MPT SAS Driver (Server 2003 x64)

* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special
  disk controllers for use with Windows, including those for
  which you have a device support disk from a mass storage device
  manufacturer, press S.

* If you do not have any device support disks from a mass storage
  device manufacturer, or do not want to specify additional
  mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device  ENTER=Continue  F3=Exit
```

10. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアッププロセスが続行し、「Setup Notification」ダイアログが表示されます。

```
Windows Server 2003, Enterprise Edition Setup
-----
Setup Notification:

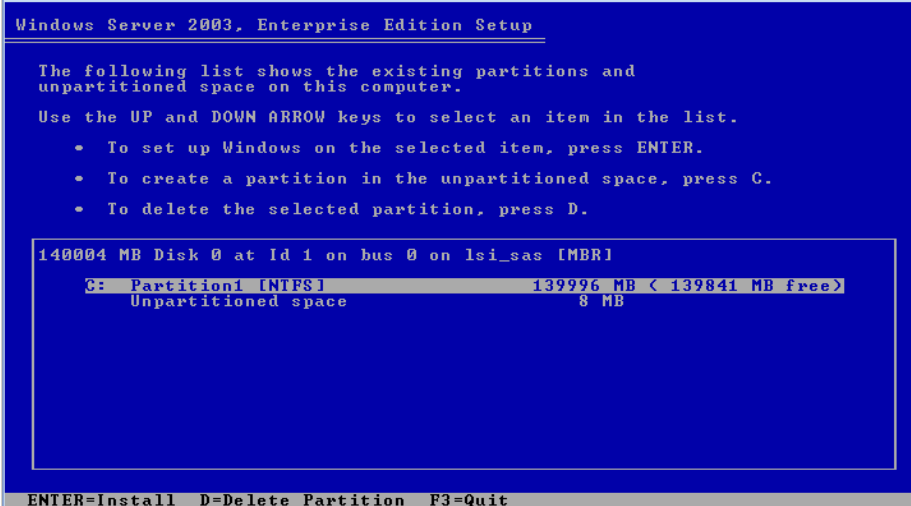
You are about to install an evaluation version of Microsoft(R)
Windows(R) operating system which contains a time limited expiration
for evaluation purposes only.

  • To continue, press ENTER.
  • To quit Setup without installing Windows, press F3.

ENTER=Continue  F3=Quit
```

11. 「Setup Notification」ダイアログで、Enter を押して続行します。
セットアップ起動ダイアログが表示されます。
12. セットアップ起動ダイアログで、Enter を押して続行します。
「Windows Licensing Agreement」ダイアログが表示されます。
13. 使用許諾契約に同意するには、F8 を押します。
サーバーの既存のパーティションとパーティション分割されていない領域を示すダイアログが表示されます。

注 – サーバーのブートディスクに以前のインストールがある場合、パーティション分割ダイアログが表示されます。



```
Windows Server 2003, Enterprise Edition Setup

The following list shows the existing partitions and
unpartitioned space on this computer.

Use the UP and DOWN ARROW keys to select an item in the list.

  • To set up Windows on the selected item, press ENTER.
  • To create a partition in the unpartitioned space, press C.
  • To delete the selected partition, press D.

140004 MB Disk 0 at Id 1 on bus 0 on lsi_sas [MBR]
C: Partition1 [NTFS] 139996 MB < 139841 MB free>
  Unpartitioned space 8 MB

ENTER=Install D=Delete Partition F3=Quit
```

14. 既存のパーティションを削除するには、D を押します。
パーティションを本当に削除するかどうかを尋ねる確認ダイアログが表示されます。
15. 確認ダイアログボックスで、Enter を押して続行します。
警告を伝える確認ダイアログが表示され、削除しようとしているパーティションが示されます。
16. 確認ダイアログボックスで、L を押してパーティションを削除します。
パーティションが削除され、サーバーのディスクでパーティション分割されていない領域を示すダイアログが表示されます。
17. パーティション分割されていない領域にパーティションを作成するには、C を押します。

新しいパーティションのサイズを指定するダイアログが表示されます。

```
Windows Server 2003, Enterprise Edition Setup

You asked Setup to create a new partition on
140004 MB Disk 0 at Id 1 on bus 0 on lsi_sas [MBR].

• To create the new partition, enter a size below and
  press ENTER.

• To go back to the previous screen without creating
  the partition, press ESC.

The minimum size for the new partition is      8 megabytes (MB).
The maximum size for the new partition is 139996 megabytes (MB).
Create partition of size (in MB): 139996

ENTER=Create  ESC=Cancel
```

18. パーティションのデフォルトのサイズをそのまま使用するか、または Back Space キーを使用して指定されているサイズを削除し、新しいサイズを入力して、Enter を押します。

Windows インストールの場合、通常は、推奨されるサイズの 40,000 メガバイトで十分です。ほかのメディアのインストール用に十分な領域がディスクに残ります。パーティション確認ウィンドウが表示されます。

19. Enter を押してパーティションを確定します。

パーティションフォーマットダイアログが表示されます。

```
Windows Server 2003, Enterprise Edition Setup

The partition you selected is not formatted. Setup will now
format the partition.

Use the UP and DOWN ARROW keys to select the file system
you want, and then press ENTER.

If you want to select a different partition for Windows,
press ESC.

Format the partition using the NTFS file system (Quick)
Format the partition using the NTFS file system

ENTER=Continue  ESC=Cancel
```

20. パーティションフォーマットダイアログで、<Quick> メニューオプションを選択し、Enter を押してパーティションをフォーマットします。
- セットアッププロセスが、パーティションをフォーマットして、ファイルを Windows インストールフォルダにコピーします。このプロセスには数分かかる場合があります。
21. 以下のメッセージのプロンプトが出されるまで、Windows Server 2003 の初期セットアップを完了するために画面上の指示に従います。
- Remove disks or other media. (ディスクまたは他のメディアを取り出してください。) Press any key to restart. (いずれかのキーを押して再起動してください。)
- このメッセージが表示されると、インストールを完了するために、選択したドライブ取得方法に応じて、以下のいずれかのステップを完了する必要があります。
- ローカルのフロッピーディスク – サーバーのフロッピードライブからフロッピーディスクを取り出します。
 - 遠隔のフロッピーディスク – Sun ILOM リモートコンソールシステムからフロッピーディスクを取り出します。
 - フロッピーイメージ – Sun ILOM リモートコンソールの「デバイス」メニューからフロッピーイメージを選択解除します。
- その後、いずれかのキーを押してシステムを再起動し、Windows Server 2003 のインストールを完了します。
22. [47 ページの「インストール後」](#)に進みます。

PXE ネットワーク環境を使用した Windows Server 2003 のインストール

ここでは、ユーザーが提供する Windows 2003 Remote Installation Services (RIS) イメージを使用し、確立された PXE ベースのネットワークを通して、Windows Server 2003 オペレーティングシステムソフトウェアをインストールするために必要な初期情報について説明します。

注 – 代わりに、ユーザーが提供する Windows Deployment Services (WDS) イメージを使用し、確立された PXE ベースのネットワークを通して、Windows 2003 オペレーティングシステムをインストールすることもできます。

この手順を完了したあとで、[47 ページの「インストール後」](#)で説明されているインストール後の作業を行う必要があります。

作業を開始する前に

RIS イメージから Windows Server 2003 のインストールを実行するには、事前に次の要件が満たされているようにしてください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作を実行します。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - PXE のブートに必要な TFTP サーバー上のファイルを構成します。
 - PXE 構成からブートするための Sun サーバー MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
 - DHCP を設定します。
- RIS イメージを使用してインストールを実行するには、以下のようしてください。
 - RIS インストールイメージを作成します。
Windows Server 2003 のマニュアルの RIS インストール手順に従います。
 - 必要なシステムデバイスドライバを RIS インストールイメージに追加します。
方法については、[59 ページの付録 A 「WIM イメージまたは RIS イメージへの Sun Blade Server ドライバの組み込み」](#) を参照してください。
 - RIS 管理者パスワード。

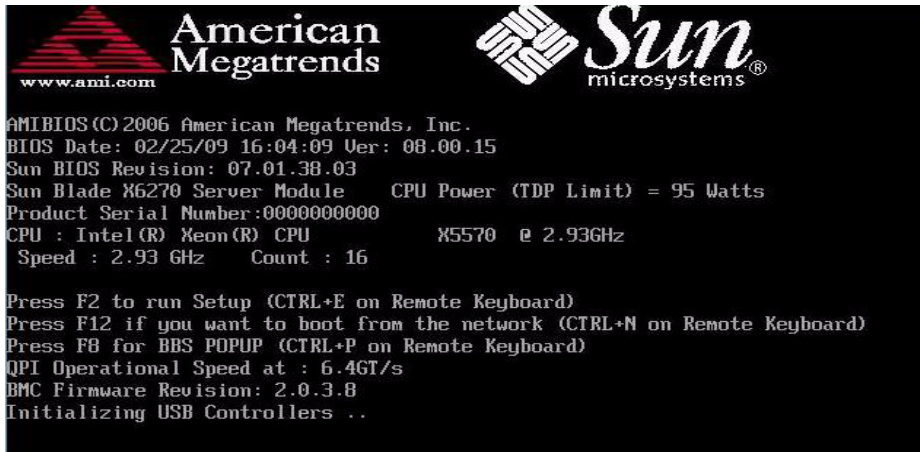
▼ PXE を使用した Windows Server 2003 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しくセットアップされ、Windows 2003 インストールメディアが PXE ブート用に使用できることを確認します。

注 – RIS ネットワーク環境の適切なセットアップと配備については、このインストールガイドの範囲外です。詳細については、Remote Installation Services の配備と使用に関する Microsoft のマニュアルを参照してください。

2. サーバーをリセットするか、電源を入れ直します。たとえば次のようにします。
 - ILOM Web インタフェースで、「Remote Power Control」タブの「Reset」を選択します。
 - ローカル サーバーで、サーバーの前面パネルにある電源ボタンを (約 1 秒間) 押して電源を切り、再び電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を入れます。
 - サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。reset /SYS
 - CMM の ILOM CLI で、次のように入力します。reset /CH/BLn/SYS
n はシャーシ内のサーバーモジュールの番号です。

BIOS 画面が表示されます。



```
www.ami.com
American Megatrends
Sun
microsystems®

AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 02/25/09 16:04:09 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.38.03
Sun Blade X6270 Server Module CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
CPU : Intel(R) Xeon(R) CPU X5570 @ 2.93GHz
Speed : 2.93 GHz Count : 16

Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.3.8
Initializing USB Controllers ..
```

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

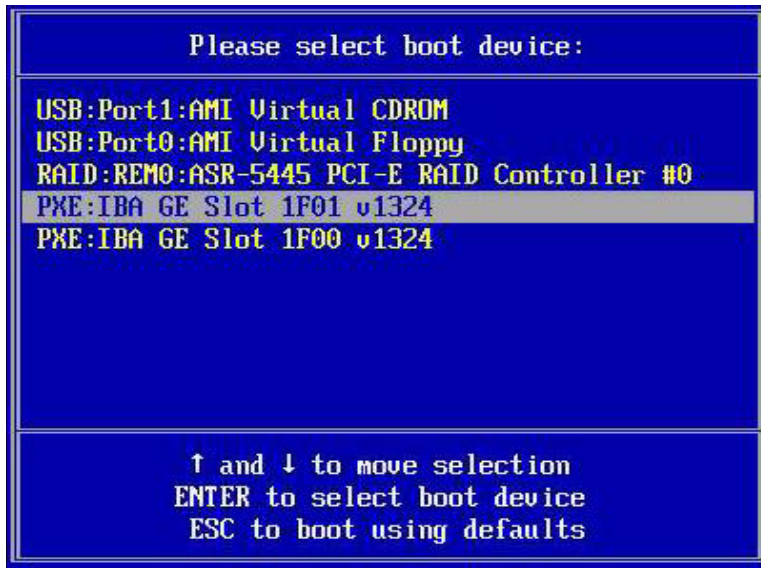
3. F8 キーを押して、一時的な起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、適切な PXE インストール起動デバイスを選択して、Enter を押します。

PXE インストール起動デバイスは、ネットワークインストールサーバーと通信するように設定されている物理ネットワークポートです。

注 - 次の「Please Select Boot Device」ダイアログで一覧表示されている起動デバイスオプションは、画面に表示されるオプションと異なる場合があります。



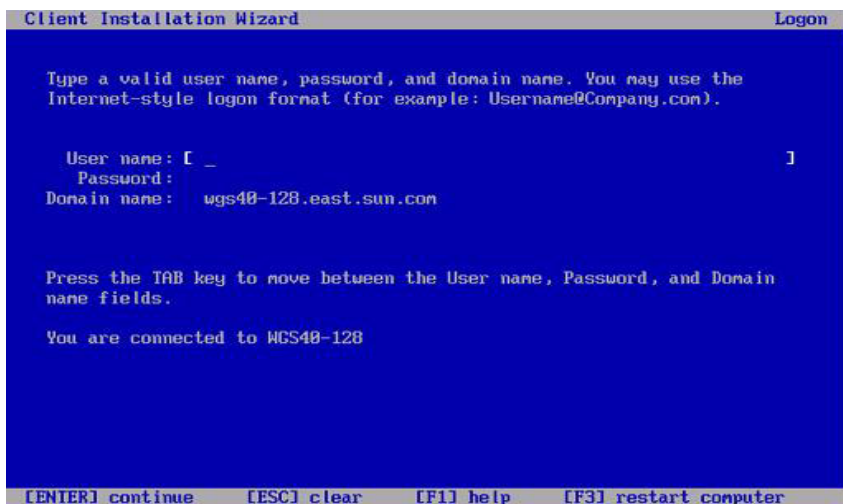
「Boot Agent」ダイアログが表示されます。

```
Intel(R) Boot Agent GE v1.3.24  
Copyright (C) 1997-2008, Intel Corporation  
  
Intel(R) Boot Agent PXE Base Code (PXE-2.1 build 086)  
Copyright (C) 1997-2007, Intel Corporation  
  
CLIENT MAC ADDR: 00 14 4F CA 5F 81  GUID: 000020FF FFFF FFFF FFFF 00144FCA5F82  
CLIENT IP: 172.20.103.132  MASK: 255.255.255.0  DHCP IP: 172.20.103.254  
  
Downloaded WDSNBP...  
  
Architecture: x64  
Contacting Server: 172.20.103.99.  
TFTP Download: boot\x64\pxeboot.com  
  
Press F12 for network service boot
```

5. 「Boot Agent」ダイアログで、ネットワークサービスブートの F12 を押します。
クライアントインストールウィザードの開始画面が表示されます。



6. クライアントインストールウィザードの開始画面で、Enter を押して続行します。
クライアント
「Logon」ダイアログが表示されて、ユーザー名、パスワード、ドメイン名の入力を求められます。



7. 「Logon」ダイアログボックスで、ユーザー名とパスワードを指定して、Enter を押します。

Windows Server 2003 のバージョンのダイアログが表示されます。

8. Windows Server 2003 のバージョンのダイアログで、インストールするバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) を選択して、Enter を押します。

Windows Server 2003 オペレーティングシステムプラットフォームのダイアログが表示されます。



9. プラットフォームダイアログで、インストールする適切な OS オプションを選択して、Enter を押します。

注 – OS 選択ダイアログでは、RIS サーバーからのインストールで使用できる OS イメージの名前が示されます。RIS サーバーからの OS 選択ダイアログに表示されるオプションは、次に示す例のダイアログのオプションとは異なります。

「Caution」ダイアログが表示されます。

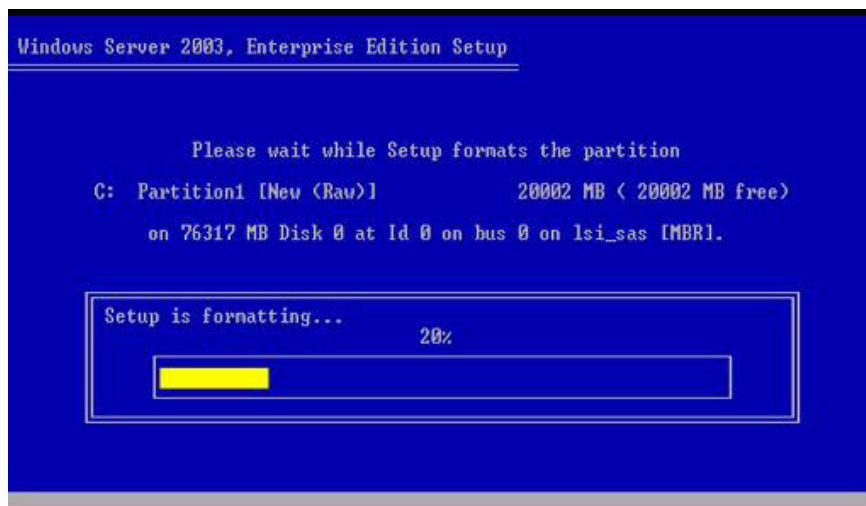
10. 「Caution」ダイアログで Enter を押して続行します。
「Installation Information」ダイアログが表示されます。
11. 「Installation Information」ダイアログで Enter を押して続行します。
「Administrator Password」ダイアログが表示されます。
12. 「Administrator Password」ダイアログでは次のようにします。
 - a. OS 管理者パスワードを指定して Enter を押します。

注 – このパスワードは OS インストールターゲットに割り当てられます。

パスワードの確認を求められます。

- b. 「Administrator Password Confirmation」ダイアログで、パスワードを再入力して Enter を押します。

Windows のセットアップが開始し、セットアップがパーティションをフォーマットしていることを示すメッセージが表示されます。



13. 47 ページの「インストール後」に進みます。

第3章

Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストール

この章では、Windows Server 2008 オペレーティングシステム (Operating System、OS) のインストールについて説明します。

注 – ディスク上に RAID セットを作成する場合、OS をインストールする前にハードウェア RAID を作成することをお勧めします。詳細は、『Sun™ Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』(820-6350) を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 38 ページの「Windows Server 2008 のインストールの作業マップ」
- 39 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2008 のインストール」
- 43 ページの「PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 のインストール」

Windows Server 2008 のインストールの作業マップ

表 3-1 を使用して、一連の作業として定義されているインストールプロセスを確認します。この表では、必須作業を定義して説明します。また、各作業の実行手順へのリンクも示します。

表 3-1 Windows Server 2008 のインストールの作業マップ

手順	作業	説明	関連トピック
1	インストールの前提条件を確認する。	サーバーにオペレーティングシステムをインストールする場合に適用される要件がすべて満たされていることを確認します。	• 3 ページの表 1-2 「OS インストールの前提条件」
2	インストール方法を選択します。	使用しているインフラストラクチャーのニーズを満たすインストール方法を評価し、選択します。	• 5 ページの「インストール方法」
3	BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認する。	オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、BIOS が出荷時のデフォルト設定に設定されていることを確認します。	• 9 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	Windows インストールメディアを集める。	Windows OS は、CD および DVD メディアと、Windows OS のインストールに必要なマニュアルで提供されています。	• Windows 2003 用のメディアは http://www.microsoft.com でダウンロードまたは注文できます。
5	Windows 2008 OS インストールを実行します。	この章の説明に従って Windows 2008 オペレーティングシステムをインストールします。	• 39 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2008 のインストール」 • 43 ページの「PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 のインストール」
6	該当する場合、インストール後にドライバと追加ソフトウェアをインストールします。	必要に応じて、サーバー固有の更新されたドライバおよびサーバーの追加ソフトウェアをインストールします。	• 47 ページの「インストール後」
7	該当する場合は Wake On LAN 機能を有効にする。	必要な場合は、このサーバーの Wake On LAN 機能を有効にできます。	• 47 ページの「インストール後」

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。この節では、Windows Server 2003 メディアのブート、ブート時のドライバのインストール (必要な場合)、およびドライブのパーティション分割の手順について説明します。その他の情報については、<http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en/us/product-documentation.aspx> にある、Microsoft の Windows 2008 製品ドキュメントを参照してください。

ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2008 のインストール

次の手順では、Windows Server 2008 オペレーティングシステムをローカルまたは遠隔メディアからブートする方法について説明します。次のいずれかのソースから Windows インストールメディアをブートするものとします。

- Windows 2008 CD または DVD (内部または外部 CD/DVD)
- Windows 2008 ISO イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[43 ページの「PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 のインストール」](#)の手順を参照してください。

作業を開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を確認してください。

- オペレーティングシステムのインストールに適用される前提条件がすべて満たされているようにしてください。これらの前提条件についての詳細は、[3 ページの表 1-2「OS インストールの前提条件」](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール方法 (例: コンソール、ブートメディア、インストールターゲット) を選択して確立しておくことをお勧めします。これらのセットアップ要件については、[5 ページの「インストール方法」](#)を参照してください。

この手順を完了したあとで、[47 ページの「インストール後」](#)で説明されているインストール後の作業を行う必要があります。

▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した Windows Server 2008 のインストール

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

たとえば、次のように入力します。

- **Distribution CD/DVD の場合。** ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに Windows 2008 配布メディア (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアをセットアップする方法についての詳細は、[6 ページの表 1-4「OS インストールを実行するためのブートメディアオプション」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットまたは電源投入します。

たとえば、次のように入力します。

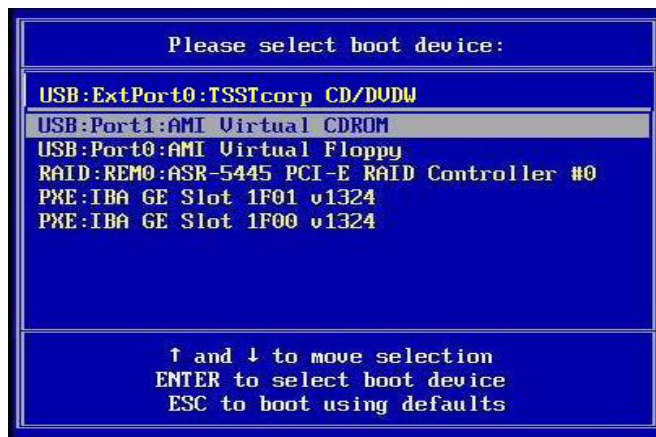
- ILOM Web インタフェースで、「Remote Power Control」タブの「Reset」を選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 `reset /SYS`
- CMM の ILOM CLI で、次のように入力します。 `reset /CH/BLn/SYS`
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールの番号です。

BIOS 画面が表示されます。

3. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP」というメッセージが表示されたら、F8 を押して起動デバイスを選択します。

「Please Select Boot Device」ダイアログが表示されます。

注 – インストールで表示されるダイアログは、サーバーにインストールされているディスク制御装置の種類によって異なる場合があります。

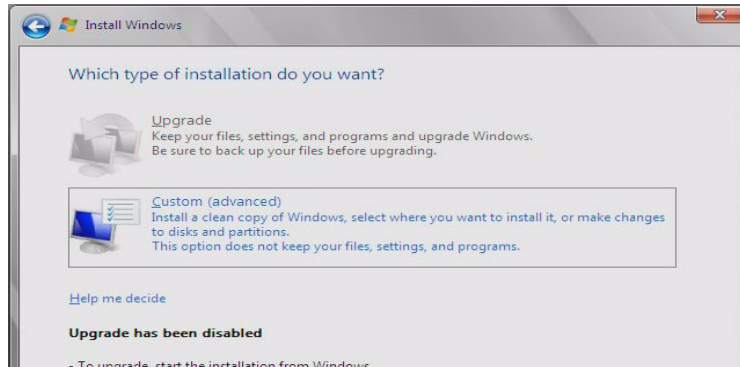


4. 「Please Select Boot Device」ダイアログで、使用するよう選択した Windows メディアのインストール方法に応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

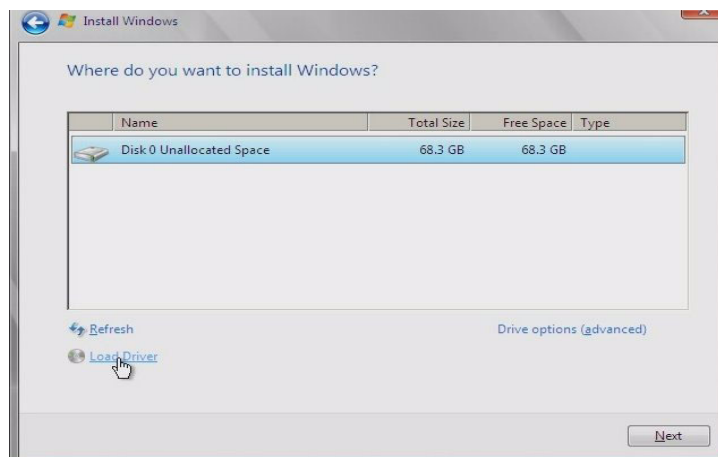
たとえば、次のように入力します。

- Windows ローカルによる配布方法を使用するよう選択した場合は、「CD/DVDW」を選択します。
- Sun ILOM リモートコンソールによる配布方法を使用するよう選択した場合は、「Virtual CDROM」を選択します。

5. 「CD からブートするにはいずれかのキーを押します (Press any key to boot from CD)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。
Windows インストールウィザードが開始されます。
「インストールタイプ (Installation Type)」ダイアログが表示されるまで、Windows インストールウィザードを続行します。
6. 「インストールタイプ (Installation Type)」ダイアログで、「カスタム (詳細) (Custom (advanced))」をクリックします。



「Windows のインストール場所の選択 (Where Do You Want to Install Windows)」ダイアログが表示されます。

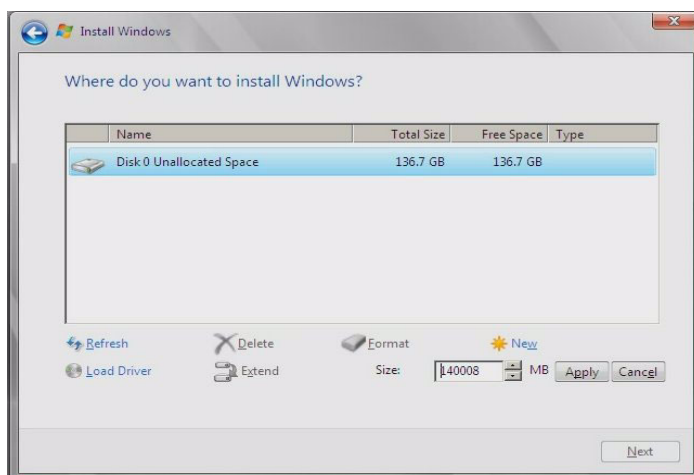


7. 「Windows のインストール場所の選択 (Where Do You Want to Install Windows)」ダイアログで、次のいずれかの操作を実行します。
- Windows のデフォルトパーティション情報を上書きしない場合は、「次へ (Next)」をクリックして手順 9 に進みます。
 - Windows のデフォルトパーティション情報を上書きする場合は、「ドライブ オプション (詳細) (Drive Options (advanced))」オプションをクリックして手順 8 に進みます。



注意 – 既存のパーティションをふたたびパーティション分割したりフォーマットしたりすると、パーティション上のすべてのデータが破棄されます。

「Windows のインストール場所の選択 (Where Do You Want to Install Windows)」ダイアログが表示されます。



8. 「Windows のインストール場所の選択 (Where Do You Want to Install Windows)」ダイアログで、次の操作を実行します。
- 「削除 (Delete)」をクリックして既存のパーティションを削除します。
確認のウィンドウが表示されます。
 - 「OK」をクリックしてパーティションの削除を確認します。
 - 「新規 (New)」をクリックして新規のパーティションを作成します。
 - 必要に応じてパーティションサイズの設定を変更し、「適用 (Apply)」をクリックします。
パーティションが作成されます。
 - 「次へ (Next)」をクリックして次の手順に進みます。
Windows のインストールが開始されます。
インストールプロセス中に、サーバーが何度か再起動されます。このプロセスには数分かかる場合があります。

- Windows のインストールが完了すると、Windows が起動され、ユーザーパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。
- ユーザーパスワードダイアログで「OK」をクリックし、初期ユーザーログインアカウントを設定します。

注 – Windows Server 2008 では、ユーザーアカウントに対して強固なパスワード方式が適用されます。標準的なパスワードの制限事項には、文字数、複雑性、および履歴が含まれます。詳細は、アカウント作成ページの「アクセシビリティ (Accessibility)」リンクをクリックしてください。

初期ユーザーアカウントが作成されると、Windows Server 2008 のデスクトップが表示されます。

- [47 ページの「インストール後」](#)に進みます。

PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 のインストール

この節では、ユーザーが提供する Windows 展開サービス (Windows Deployment Services、WDS) イメージを使用し、確立された PXE ベースのネットワークを通して、Windows Server 2008 オペレーティングシステムソフトウェアをインストールするために必要な初期情報について説明します。

この節のトピックは次のとおりです。

- [44 ページの「作業を開始する前に」](#)
- [44 ページの「PXE を使用した Windows Server 2008 のインストール」](#)

この節で説明されている手順には、Windows 展開サービス (Windows Deployment Services、WDS) イメージを使用してネットワークを通して Windows 2008 をインストールする初期の手順が記載されています。具体的には、WDS インストールサーバーと通信する、サーバーの PXE ネットワークインタフェースカードを選択する手順について説明します。WDS イメージを使用して Windows Server 2008 オペレーティングシステムをインストールする方法についての詳細は、Microsoft の Windows 展開サービスのドキュメントを参照してください。

この手順を完了したあとで、[47 ページの「インストール後」](#)で説明されているインストール後の作業を行う必要があります。

作業を開始する前に

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作を実行します。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - PXE のブートに必要な TFTP サーバー上のファイルを構成します。
 - PXE 構成からブートするための Sun サーバー MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
 - DHCP を設定します。
- WIM イメージを使用してインストールを実行するには、次のようにしてください。
 - WIM インストールイメージを作成します。
Windows Server 2008 のドキュメントの WIM のインストール手順に従います。
 - 必要なシステムデバイスドライバを WIM インストールイメージに追加します。
方法については、[59 ページの付録 A 「WIM イメージまたは RIS イメージへの Sun Blade Server ドライバの組み込み」](#) を参照してください。
 - WIM の管理者パスワードを取得します。

▼ PXE を使用した Windows Server 2008 のインストール

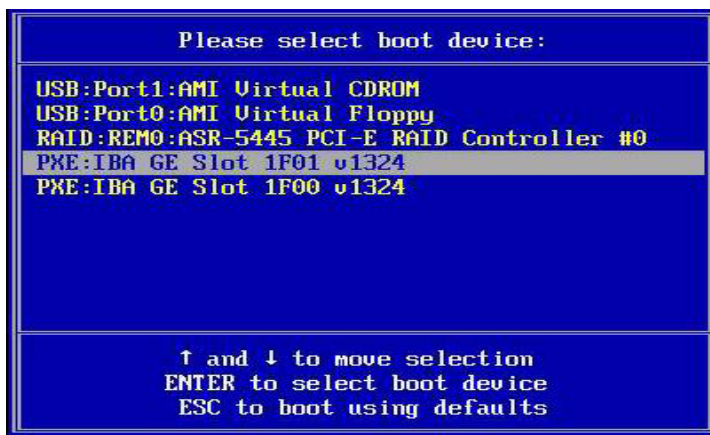
1. 次のようにして、サーバーをリセットまたは電源を入れます。
 - ILOM Web インタフェースで、「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブの「リセット (Reset)」を選択します。または
 - ブレードの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してブレードをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。BIOS 画面が表示されます。

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

2. F8 キーを押して、一時的な起動デバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

3. 「Please Select Boot Device」メニューで、適切な PXE インストール起動デバイスを選択して、Enter を押します。

PXE インストール起動デバイスは、ネットワークインストールサーバーと通信するように設定されている物理ネットワークポートです。



「Boot Agent」ダイアログが表示されます。

4. 「Boot Agent」ダイアログで、ネットワークサービスブートの F12 を押します。



5. WDS による Windows Server 2008 の通常のネットワークインストールに進みます。詳細は、Microsoft の Windows 展開サービスの製品ドキュメントを参照してください。
6. 47 ページの「インストール後」に進みます。

第4章

インストール後

Windows Server をインストールしオペレーティングシステムを再起動したあとで、次のインストール後処理タスクを確認し、必要に応じて使用しているシステムに該当する作業を実行してください。

- 47 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」
- 49 ページの「サーバー固有デバイスドライバのインストール」
- 52 ページの「追加ソフトウェアのインストール」
- 55 ページの「Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft の IPMI System Management ドライバの設定」
- 57 ページの「Wake On LAN のサポートを有効にする」
- 57 ページの「TPM のサポートの設定」

サーバー固有ドライバのダウンロード

この節では、Windows Server のインストールに必要なサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法を説明します。

注 – Sun Blade X6270 のツールおよびドライバ DVD には、Windows Server のインストールに必要なサーバー固有のドライバがすべて含まれています。ツールおよびドライバの CD を使用している場合は、この節をスキップして、49 ページの「サーバー固有デバイスドライバのインストール」に進むことができます。また、次の URL から更新されたツールとドライバの DVD イメージをダウンロードすることにより、Sun Blade X6270 サーバーモジュール用ツールとドライバの最新バージョンの DVD を取得できます。

<http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp>

▼ サーバー固有ドライバのダウンロード

1. 次の URL から、Sun Blade X6270 サーバーモード用ドライバをダウンロードします。<http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp>
2. 以下のいずれかのダウンロードオプションを選択します。
 - メディアを使用してサーバー固有ドライバをインストールする場合は、`Windows.zip` をハードドライブの場所またはインストール時にアクセス可能なメディアにダウンロードします。`Windows.zip` に含まれた以下のサブパッケージを展開します。
 - `FloppyPack_x_x_x.zip` (Windows Server 2003 インストール用) – Intel SATA ドライバ、LSI SAS/SATA RAID ドライバ、Sun StorageTek SAS/SATA RAID ドライバ、QLogic SAN ドライバ、Emulex SAN ドライバが含まれます。この zip ファイルの内容は、Windows Server 2003 のインストール用ドライバメディアの作成に使用されます。
 - `InstallPack_x_x_x.exe` (Windows Server 2003 および 2008 インストール用) – Windows Server 2003 または 2008 をインストールしたあとで、サーバー固有デバイスドライバをすべてインストールするプログラムが含まれます。このファイルを使用すると、すべてのインストール後のサーバー固有ドライバをインストールします。
 - `DriverPack_x_x_x.zip` (Windows Server RIS または WIM の上級ユーザーのみ) – Windows Server 用サーバー固有ドライバアーカイブが含まれます (英語)。Sun サーバードライバを Remote Installation Service (RIS) イメージまたは Windows Imaging Format (WIM) イメージに組み込む場合には、この zip ファイルの内容を使用できます。詳細は、[付録 A](#) を参照してください。
 - `OptPack_x_x_x.zip` (PXE の上級ユーザーのみ) – 追加のソフトウェアアーカイブが含まれます。追加ソフトウェアを PXE インストールに組み込む場合には、この zip ファイルをダウンロードします。
 - PXE サーバーを使用してサーバー固有ドライバをインストールする場合 (上級者向けインストール) は、`DriverPack_x_x_x.zip` ファイルの内容を PXE サーバー上で展開します。

注 – `_x_x_x` の数字は、パッケージのバージョンを表します (例: `FloppyPack_1_1_4.zip`)。

3. [49 ページ](#)の「サーバー固有デバイスドライバのインストール」に進みます。

サーバー固有デバイスドライバのインストール

Sun は、Sun サーバー固有デバイスドライバおよび追加ソフトウェアをインストールするウィザードを提供しています。サーバー固有デバイスドライバは、ハードウェアのインストールが完了した場合や将来追加する場合に、サーバーに追加されたオプションのデバイスをサポートするために提供されます。

Sun Server インストールパッケージウィザードは、次のいずれかの方法を使用して起動できます。

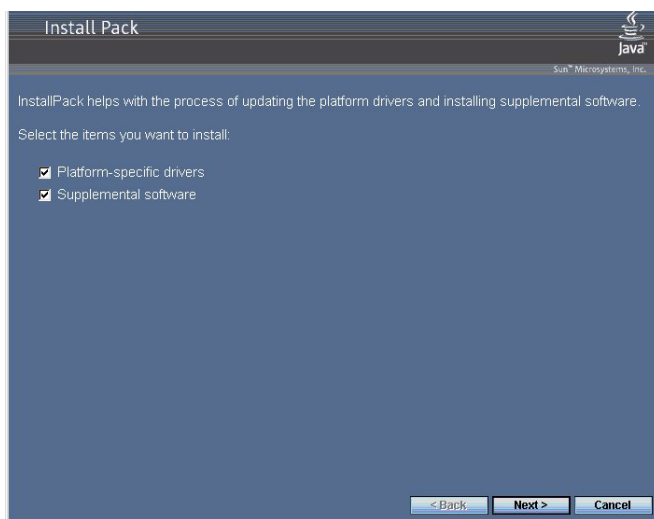
- サーバーのツールとドライバの CD のメインメニューから
または
- InstallPack_x_x_x.exe 実行可能ファイルから

注 – 最近ダウンロードした InstallPack_x_x_x.exe を使用してドライバを更新することで、最新バージョンのサーバー固有ドライバに更新できます。

▼ サーバー固有デバイスドライバのインストール

1. 次のいずれかの方法を使用して、Sun インストールパッケージソフトウェアを起動します。
 - サーバーの CD/DVD ドライブに、ツールとドライバの CD を挿入します。
CD が自動的に起動します。
メインメニューで、Install Drivers and Supplemental Software (ドライバと追加ソフトウェアのインストール) を選択します。
または
 - InstallPack_x_x_x.exe ファイルを Sun ダウンロードサイトからダウンロードした場合、サーバーのローカルドライブに必ずコピーしてから、InstallPack_x_x_x.exe アプリケーションを実行します。

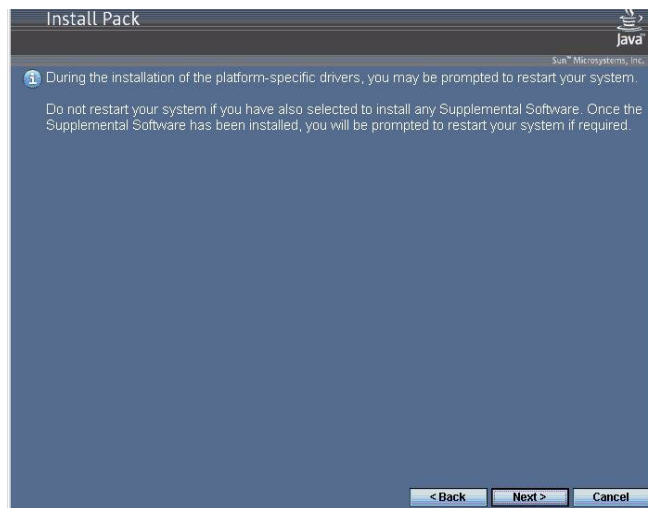
(次に示す)「Sun Server インストールパック (Sun Server Installation Package)」ダイアログボックスが表示されます。



2. 「インストールパック (Install Pack)」ダイアログボックスで、「次へ (Next)」をクリックしてデフォルトのインストール可能な項目を受け入れます。

注 – 最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、「プラットフォーム固有ドライバ (platform-specific drivers)」を常に受け入れるようにしてください。

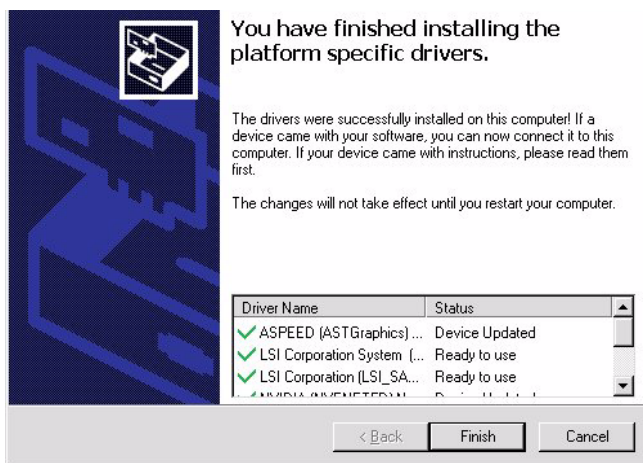
インストールパックの注意ダイアログが表示されます。



3. インストールパックの注意ダイアログボックスで、メッセージを読んでから「次へ (Next)」をクリックします。
「外部ストレージドライバディスク作成ウィザード (Mass-Storage Driver Disk Creation Wizard)」ダイアログボックスが表示されます。

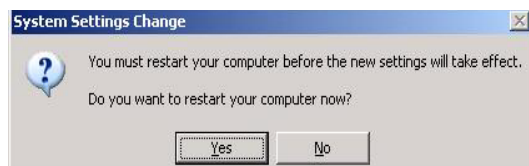


4. Mass-Storage Driver Disk Creation Wizard で、「次へ (Next)」をクリックします。
「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ページが表示されます。
5. 「エンドユーザー使用許諾契約 (End User License Agreement)」ページで、「契約に同意 (I accept this agreement)」を選択して、「次へ (Next)」をクリックします。
プラットフォーム固有ドライバがインストールされます。緑のチェックマークで、各ドライバが正常にインストールされたことを確認します。



6. 「ドライバインストールパック (Driver Installation Pack)」ダイアログボックスで「完了 (Finish)」をクリックします。

「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。



注 – 追加ソフトウェアのインストールを行う場合 (強く推奨)、この時点ではシステムを再起動しないでください。追加ソフトウェアのインストール後に、システムを再起動するように指示するメッセージが表示されます。

7. 次のいずれかの操作を実行します。

- 手順 2 でデフォルトのインストール可能な設定を受け入れた場合は、「いいえ」をクリックし、52 ページの「追加ソフトウェアのインストール」に進みます。
- 追加ソフトウェアをインストールしない場合は、「はい」をクリックしてコンピュータを再起動します。

追加ソフトウェアのインストール

表 4-1 にサーバーで使用可能なオプションの追加ソフトウェアコンポーネントを示します。

追加ソフトウェアインストールウィザードで標準インストールを選択すると、システムにすべての追加ソフトウェア (表 4-1 に一覧表示) をインストールできます。また、カスタムインストールを選択すると、追加ソフトウェア (表 4-1 に一覧表示) を個別に選択してインストールできます。追加ソフトウェアのインストールの手順については、54 ページの「追加ソフトウェアのインストール」を参照してください。

表 4-1 インストールパックのオプションの追加ソフトウェア

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	Windows 2003 で使用可能	Windows 2008 で使用可能	LSI Integrated RAID Controller を搭載したサーバー	Adaptec Integrated RAID Controller を搭載したサーバー	Intel Integrated Disk Controller を搭載したサーバー
LSI MegaRAID Storage Manager SAS 内部 RAID ホストバスアダプタで RAID を設定、監視、維持管理できます。	はい	はい	Typical (通常)	該当なし	該当なし

表 4-1 インストールパックのオプションの追加ソフトウェア (続き)

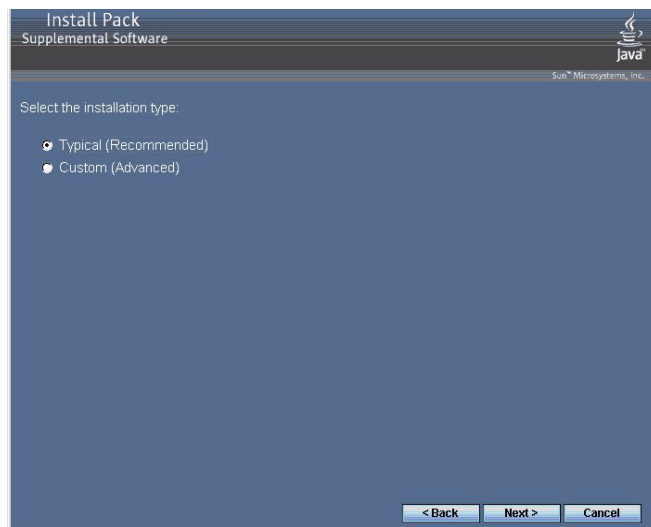
使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	Windows 2003 で使用可能	Windows 2008 で使用可能	LSI Integrated RAID Controller を搭載したサーバー	Adaptec Integrated RAID Controller を搭載したサーバー	Intel Integrated Disk Controller を搭載したサーバー
<p>Sun STK RAID Manager Adaptec SG-XPCIESAS-R-IN integrated RAID コントローラで RAID を設定、管理、監視できます。Sun STK RAID Manager の詳細については、次の Web サイトで Sun のドキュメントを参照してください。 http://docs.sun.com/app/docs/coll/dsk-cntrl</p>	はい	はい	該当なし	Typical (通常)	該当なし
<p>IPMItool コマンド行ユーティリティ このユーティリティは、BMC (別名サービスプロセッサ) を使用して、センサーデータリポジトリ (sensor data repository, SDR) を読み取り、センサーの値、システムイベントログ (System Event Log, SEL)、フィールド交換ユニット (Field Replaceable Unit, FRU) 目録を表示し、LAN 設定パラメータを取得および設定し、シャーシの電源制御処理を実行します。</p>	はい	はい	Typical (通常)	Typical (通常)	Typical (通常)
<p>IPMI System Management ドライバ* (Sun Microsystems) - センサーデータリポジトリ (sensor data repository, SDR) を読み取り、センサーの値、システムイベントログ (System Event Log, SEL)、フィールド交換ユニット (Field Replaceable Unit, FRU) 目録に関する情報を表示する、Windows ドライバ。このドライバを使用できるのは、インストールパックメディアからのみです。</p> <p>注 - この追加ソフトウェアは、Windows Server 2003 SP2 専用です。</p> <p>Windows 2003 R2 SP2 で受信箱 Microsoft ドライバを使用するには、ドライバをインストールして設定してください。ドライバの設定手順については、55 ページの「Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft の IPMI System Management ドライバの設定」を参照してください。</p>	はい (R2 SP2 以外のみ)	いいえ	Typical (通常)	Typical (通常)	Typical (通常)
<p>Intel NIC Teaming サーバー上のネットワークインタフェースを、仮想インタフェースと呼ばれる物理ポートのチームにグループ化できます。</p>	はい	はい	Typical (通常)	Typical (通常)	Typical (通常)

▼ 追加ソフトウェアのインストール

注 – 追加ソフトウェアをすでにインストールしている場合には、インストールを再度実行しても、追加ソフトウェアが必ずしも再インストールされるわけではありません。削除される場合があります。追加ソフトウェアのインストール中にはダイアログボックスの内容を注意深く確認して、結果が期待どおりになるようにしてください。

1. 次のいずれかの手順を実行します。

- 49 ページの「サーバー固有デバイスドライバのインストール」の手順を実行したときに追加ソフトウェアを選択しなかった場合は、その手順を参照してもう一度実行してください。ただし、今回は、**手順 2** でデフォルトの設定を受け入れ (デフォルトでは追加ソフトウェアをインストールします)、**手順 7** で「いいえ」を選択します。
「追加ソフトウェア」ダイアログボックスが表示されます。次のステップに進みます。
- 49 ページの「サーバー固有デバイスドライバのインストール」の**手順 2** の「Sun Server インストールパック (Sun Server Installation Package)」ダイアログボックスで追加ソフトウェアを選択し、**手順 7** で「いいえ (No)」を選択した場合は、追加ソフトウェアダイアログボックスが表示されます。次のステップに進みます。



2. 「インストールパック追加ソフトウェア (Install Pack Supplement Software)」ダイアログボックスで、「次へ (Next)」をクリックして標準設定を受け入れるか、「カスタム (Custom)」を選択してインストールオプションを選択します (表 4-1 の説明を参照)。

コンポーネントインストールウィザードの指示に従って、選択した追加ソフトウェアコンポーネントを順にインストールします。

3. 追加ソフトウェアがインストールされたら、「完了 (Finish)」をクリックします。
4. System Setting Change (システム設定の変更) ダイアログボックスで「Yes (はい)」をクリックして、システムを再起動します。
ツールとドライバの CD から Sun Server インストールパッケージソフトウェアを実行した場合は、ここでシステムから CD を取り出します。
5. Windows Server 2003 R2 SP2 を実行し、IPMItool 追加ソフトウェアをインストールした場合は、IPMItool を実行する前にこのドライバを設定する必要があります。
手順については、55 ページの「[Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft の IPMI System Management ドライバの設定](#)」を参照してください。

Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft の IPMI System Management ドライバの設定

Windows Server 2003 R2 SP2 を実行し、IPMItool 用追加ソフトウェアドライバをインストールした場合は、IPMItool を使用する前にこのドライバを設定する必要があります。

▼ Windows Server 2003 R2 SP2 用の Microsoft の IPMI System Management ドライバの設定

次のステップに従って Windows Server 2003 R2 SP2 オペレーティングシステムで IPMI ドライバを設定します。

1. Windows Server 2003 R2 SP2 システムで、次のステップを実行して Microsoft IPMI System Management ドライバを設定します。
 - a. コントロールパネルで「アプリケーションの追加と削除」を開きます。
「アプリケーションの追加と削除」ダイアログが表示されます。
 - b. 「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログが表示されます。
 - c. 「管理とモニタツール」コンポーネントを強調表示して、「詳細」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページ。
 - d. 「管理とモニタツール」ページで、次のいずれかの操作を実行します。
 - 「ハードウェア管理の選択」サブコンポーネントチェックボックスがすでに選択されている場合は、[手順 2](#)に進みます。
 - 「ハードウェア管理の選択」サブコンポーネントチェックボックスが選択されていない場合は、選択します。
「サードパーティのドライバ」警告ダイアログが表示されます。
-- 警告ダイアログで、「OK」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
 - e. 「管理とモニタツール」ページで、「OK」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログが表示されます。
 - f. Windows コンポーネントウィザードで「次へ」をクリックして、ハードウェア管理コンポーネントをインストールします。
2. 次のステップを実行して、IPMI System Management ドライバをインスタンス化します。
 - a. タスクバーで、「スタート」をクリックしてから、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
 - b. オープンリストで、以下のように入力します。
`rundll132 ipmisetp.dll,AddTheDevice`
 - c. 「OK」をクリックします。
IPMI System Management ドライバがインスタンス化されます。

3. Windows デバイスマネージャーを開き、Microsoft Generic IPMPi デバイスドライバが「システム」セクションに存在することを確認します。

IPMItool の使用方法の詳細については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。標準の IPMItool コマンドの詳細については、以下を参照してください。

<http://ipmitool.sourceforge.net/manpage.html>

Wake On LAN のサポートを有効にする

オペレーティングシステムをインストールしたあとで、必要に応じて BIOS 設定ユーティリティで Wake On LAN (WOL) オプションを有効にできます。この機能を使用すると、ネットワーク上の別の場所からサーバーの電源を投入できます。WOL を有効にするための要件の詳細は、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Service Manual』(820-6178) の「Wake On LAN - Remote Power On」を参照してください。

TPM のサポートの設定

Windows 2003 および Windows 2008 で提供される Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするように Sun Blade X6270 サーバーモジュールを設定してください。手順については、『Sun Blade X6270 Server Module Service Manual』の TPM の設定サポートを参照してください。

注 - TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できます。この機能の実装の詳細については、Microsoft が提供する Windows Trusted Platform Module Management のドキュメントを参照してください。

付録 A

WIM イメージまたは RIS イメージへの Sun Blade Server ドライバの組み込み

この付録は、Windows Imaging Format (WIM) イメージまたは Remote Installation Services (RIS) イメージにサーバー固有のドライバを組み込む必要がある熟練したシステム管理者を対象としています。

WIM ファイルは、Windows Deployment Services (WDS) を使用してインストールします。RIS イメージは、レガシーモードの WDS または RIS を使用して配備できます。WDS または RIS の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

この付録には以下のセクションが含まれています。

- [60 ページの「必要なドライバの確認」](#)
- [60 ページの「WIM イメージへのドライバの追加」](#)
- [63 ページの「RIS イメージへのドライバの追加」](#)

必要なドライバの確認

WIM または RIS イメージに組み込む必要があるサーバー固有ドライバを表 A-1 に示します。

表 A-1 WIM または RIS イメージに必要なサーバー固有ドライバ

Device Drivers (デバイスドライバ)	Windows Server 2003 用に組み込み		Windows Server 2008 用に組み込み	
	32 ビット	64 ビット	32 ビット	64 ビット
Intel ネットワークドライバ	はい	はい	はい	はい
Intel Chipset ドライバ	はい	はい	いいえ	いいえ
Aspeed グラフィックドライバ	はい	はい	はい	はい
Infineon TPM ドライバ*	はい	はい	いいえ	いいえ
ディスクコントローラドライバ (サーバーに依存): • LSI SAS RAID HBA、SG-PCIE8SAS-I (LSI ベースの統合 RAID コントローラとも呼ばれます) または • Sun StorageTek SAS RAID HBA、SG-XPCIESAS-R (Adaptec ベースの統合 RAID コントローラとも呼ばれます) または • Intel ICH10 Controller (Intel ベースの統合ディスクコントローラとも呼ばれます)	はい	はい	はい	はい

*使用する前に、Trusted Platform Module (TPM) 機能をサーバーに構成する必要があります。TPM の構成方法については、『Sun Blade X6270 Server Module Service Manual』を参照してください。

WIM イメージへのドライバの追加

Windows Server 2003 の場合、オペレーティングシステムをインストールするには、LSI と Adaptec の RAID コントローラドライバおよび Intel ディスクコントローラドライバを組み込む必要があります。Windows Server 2008 の場合、システムをインストールするには、LSI と Adaptec の RAID コントローラドライバおよび Intel ディスクコントローラドライバで十分です。ファームウェア RAID 機能のホスト制御の全機能を有効にするため、両方の RAID コントローラドライバを更新することをお勧めします。

この節の手順では、Windows Deployment Services が Windows Server 2003 で動作しているものとします。

開始前のご注意

WIM イメージの作成前に、以下を実行します。

- ドライバの Pack_x_x_x.zip を探します

DriverPack_x_x_x.zip は、Tools & Drivers CD/DVD から入手するか、または Sun ダウンロードサイトからダウンロードできます。ダウンロードの方法については、[47 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」](#)を参照してください。

▼ WIM イメージにドライバを追加するには

1. Windows Server 2008 DriverPack_x_x_x.zip の内容をネットワーク共有 (例: \\yourshare\share\DriverPack) に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

注 – インストール中のドライバの相互作用に関する潜在的な問題のため、DriverPack_x_x_x.zip を解凍した後、Intel ICH10 Controller にインストールしない場合は、i386\Intel\hba および amd64\Intel\hba ディレクトリを削除してください。

2. 更新するサービスイメージを選択して、イメージをエクスポートします。
 - a. 「スタート」をクリックし、「管理ツール」をクリックして、「Windows 展開サービス」をクリックします。
 - b. 対象のイメージを探します。イメージを右クリックし、「無効にする」をクリックします。
 - c. イメージを右クリックし、「イメージのエクスポート」を選択します。ウィザードの指示に従って、イメージを適切な場所にエクスポートします。
3. エクスポートした Windows イメージをマウントします。次に例を示します。

```
imagex /mountrw C:\windows_distribution\sources\install.wim 1  
C:\win_mount
```

Install.wim ファイルの最初の Windows イメージが、C:\win_mount にマウントされます。
4. Windows システムイメージマネージャー (Windows System Image Manager, Windows SIM) を使用して、インストールするデバイスドライバへのパスを含む応答ファイルを作成します。

Windows SIM アプリケーションの起動方法の詳細については、Windows 自動インストールキット (Automated Installation Kit, AIK) の Microsoft のマニュアルを参照してください。

5. Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE コンポーネントを offlineServicing パスにある応答ファイルに追加します。
6. 応答ファイルで Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE ノードを展開します。「DevicePaths」を右クリックし、「新しい PathAndCredentials の挿入」を選択します。
新しい PathAndCredentials リスト項目が表示されます。
7. Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE コンポーネントで、ネットワーク共有上の DriverPack フォルダ内のアーキテクチャフォルダへのパスと、ネットワーク共有へのアクセスに使用する資格情報を指定します。
たとえば、64 ビットイメージのパスと資格情報は次のようになります。
<Path>\\yourshare\share\DriverPack\amd64</Path>
<Credentials>
 <Domain>MyDomain</Domain>
 <Username>MyUserName</Username>
 <Password>MyPassword</Password>
</Credentials>
8. 応答ファイルを保存して Windows SIM を終了します。応答ファイルは次のサンプルのようになります。サンプルではアーキテクチャーは 64 ビットを想定しています。

```
<?xml version="1.0" ?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:asm.v3" xmlns:wcm=
"http://schemas.microsoft.com/WMIconfig/2002/State">
  <settings pass="offlineServicing">
    <component name="Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE"
processorArchitecture="amd64" publicKeyToken="31bf3856ad364e35"
language="neutral" versionScope="nonSxS">
      <DriverPaths>
        <PathAndCredentials wcm:keyValue="1">
          <Path>>\\yourshare\share\DriverPack\amd64</Path>
          <Credentials>
            <Domain>MyDomain</Domain>
            <Username>MyUserName</Username>
            <Password>MyPassword</Password>
          </Credentials>
        </PathAndCredentials>
      </DriverPaths>
    </component>
  </settings>
</unattend>
```


9. パッケージマネージャーを使用して、無人インストールの応答ファイルをマウントした Windows イメージに適用します。作成するログファイルの場所を指定します。たとえば、次のように入力します。

```
pkgmgr /o:"C:\wim_mount\;C:\wim_mount\Windows" /n:"C:\unattend.xml" /l:"C:\pkgmgrlogs\logfile.txt"
```

応答ファイルのパスで参照されている .inf ファイルが、Windows イメージに追加されます。ログファイルはディレクトリ C:\pkgmgrlogs\ に作成されます。

パッケージマネージャーの使用方法の詳細については、Microsoft の Windows AIK のマニュアルを参照してください。

10. マウントされた Windows イメージで %WINDIR%\Inf\ ディレクトリの内容を調べて、.inf ファイルがインストールされていることを確認します。

Windows イメージに追加されるドライバの名前は oem*.inf です。これは、コンピュータに追加される新しいドライバの名前が一意になるようにするためです。たとえば、ファイル MyDriver1.inf および MyDriver2.inf は、oem0.inf および oem1.inf に名前を変更されます。

11. .wim ファイルをマウント解除して、変更をコミットします。たとえば、次のように入力します。

```
imagex /unmount /commit C:\wim_mount
```

12. サービスのイメージを置き換えて、イメージを有効にします。

- a. Windows 展開サービススナップインが動作していない場合は、「スタート」をクリックし、「管理ツール」をクリックして、「Windows 展開サービス」をクリックします。
- b. 対象のイメージを探します。イメージを右クリックし、「イメージの置換」を選択します。ウィザードの指示に従って、サービスのイメージを更新した Windows イメージに置き換えます。
- c. サービスのイメージを右クリックし、「有効にする」を選択します。

サービスのイメージが使用できるようになり、サーバー固有のすべてのドライバがイメージに追加されます。

RIS イメージへのドライバの追加

Windows リモートインストールサービスを実行しているサーバーを使用した Windows Server 2003 のリモートインストールでは、Windows Server 2003 で提供される大容量記憶装置コントローラドライバは、オペレーティングシステムをインストールするには不十分です。RIS イメージを DriverPack_x_x_x.zip で使用可能な大容量記憶装置ドライバで更新することをお勧めします。

開始前のご注意

RIS イメージの作成前に、以下を実行します。

- Windows リモートインストールサービスが Windows サーバーで実行されている必要があります。詳細については、Windows リモートインストールサービスのドキュメントを参照してください。
- Windows Server 2003 の DriverPack_x_x_x.zip を探します。
DriverPack_x_x_x.zip は、Tools & Drivers CD/DVD から入手するか、または Sun ダウンロードサイトからダウンロードできます。ダウンロードの方法については、[47 ページの「サーバー固有ドライバのダウンロード」](#)を参照してください。

▼ RIS イメージにドライバを追加するには

以下の手順で、%RIS_Image% は、RIS サーバーの Windows イメージのルートディレクトリを指します。

1. %RIS_Image% に次のディレクトリを作成します。
 - \$OEM\$\textmode
 - \$OEM\$\\$\$OEMDIR
 - \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers
2. DriverPack_x_x_x.zip の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
3. %RIS_Image% を、Windows プラットフォームのサーバー固有ドライバで更新します。
 - 32 ビットの場合、DriverPack\i386 フォルダの内容を、ディレクトリ構造を変更しないようにして %RIS_Image%\\$OEM%\\$1\Sun\Drivers フォルダにコピーします。
 - 64 ビットの場合、DriverPack\amd64 フォルダの内容を、ディレクトリ構造を変更しないようにして %RIS_Image%\\$OEM%\\$1\Sun\Drivers フォルダにコピーします。
4. 次のいずれかの方法を使用して、%RIS_Image%\\$OEM%\textmode フォルダを大容量記憶装置ドライバで更新します。
 - 方法 1:
 - a. Tools & Drivers CD/DVD を使用し、[18 ページの「デバイスドライバ用のフロッピーディスクの作成」](#)で説明されている MKFLOPPY ユーティリティを使用し、Intel ICH10/LSI/SMI 用の Windows 2003 大容量記憶装置ドライバディスクを作成します。
 - b. フロッピーの内容を %RIS_Image%\\$OEM%\textmode フォルダにコピーします。

- 方法 2:
 - a. Tools & Drivers CD/DVD の適切な floppypack フォルダを、%RIS_Image%\\$OEM\$\textmode フォルダにコピーします。
 - LSI の場合: \windows\w2k3\packages\floppypack\files\LSI
 - Sun StorageTek (Adaptec) の場合: \windows\w2k3\packages\floppypack\files\SMI
 - Intel ICH10 の場合: \windows\w2k3\packages\floppypack\files\intel
- 5. 適切な大容量記憶装置ドライバディレクトリの内容を、textmode ディレクトリのルートディレクトリにコピーします。
 - LSI の場合:
 - Windows 2003 32 ビットを LSI コントローラにインストールする場合は、%RIS_Image%\\$OEM\$\textmode\LSI\i386 の内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\textmode にコピーします。
 - Windows 2003 64 ビットを LSI コントローラにインストールする場合は、%RIS_Image%\\$OEM\$\textmode\LSI\amd64 の内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\textmode にコピーします。
 - Sun StorageTek (Adaptec) の場合:
 - Windows 2003 32 ビットを Adaptec コントローラにインストールする場合は、%RIS_Image%\\$OEM\$\textmode\smi\i386 の内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\textmode にコピーします。
 - Windows 2003 64 ビットを Adaptec コントローラにインストールする場合は、%RIS_Image%\\$OEM\$\textmode\smi\amd64 の内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\textmode にコピーします。
 - Intel ICH10 の場合:
 - Windows 2003 32 ビットを ICH10 コントローラにインストールする場合は、%RIS_Image%\\$OEM\$\textmode\intel\i386 の内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\textmode にコピーします。
 - Windows 2003 64 ビットを ICH10 コントローラにインストールする場合は、%RIS_Image%\\$OEM\$\textmode\intel\amd64 の内容を %RIS_Image%\\$OEM\$\textmode にインストールします。
- 6. Microsoft TechNet の技術文書「Creating an Answer File with Setup Manager」の方法に従って応答ファイルを作成します。

この文書は、以下の場所にあります。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/78421630-6fcc-4604-a888-bd9c84244a5b1033.msp>

7. 次の表のいずれかで示されているように大容量記憶装置ソリューションの .sif ファイルを変更し、手順 8 に進みます。

- LSI ベースの統合 RAID コントローラを使用するサーバーの場合は、表 A-2 を参照してください。
- Adaptec ベースの統合 RAID コントローラを使用するサーバーの場合は、表 A-3 を参照してください。
- Intel ベースの統合ディスクコントローラを使用するサーバーの場合は、表 A-4 を参照してください。

注 – 読みやすいように、OemPnPDriversPath の情報は複数行に分けてあります。この情報は 1 行で入力する必要があります。MassStorageDrivers で示されている 3 つのドライバは複数行で示されています。各ドライバ (“ドライバの説明” = OEM) は個別の行に記述する必要があります。インストール中のドライバの相互作用に関する潜在的な問題のため、Intel ICH10 コントローラにインストールする場合は、OemPnPDriversPath エントリに Sun\Drivers\intel\hba パスのみを含めます。Sun StorageTek (Adaptec) または LSI の RAID コントローラにインストールする場合は、セットアップが完了した後で Intel ICH10 ドライバを手動でインストールします。ドライバは、インストールディスクのルートの Sun\Drivers\intel\hba ディレクトリにあります。

表 A-2 LSI ベースの統合 RAID コントローラを使用するサーバーの .sif ファイルの変更

Windows Server 2003 32 ビット	Windows Server 2003 64 ビット
[Unattended]	[Unattended]
OemPreinstall = yes	OemPreinstall = yes
OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qllogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;\Sun\Drivers\.Lsi;\Sun\Drivers\smi"	OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qllogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;\Sun\Drivers.Lsi\Sun\Drivers\smi"
[MassStorageDrivers]	[MassStorageDrivers]
"LSI Logic Fusion-MPT SAS Storport Driver (32-bit)" = OEM	"LSI Logic Fusion-MPT SAS Storport Driver (64-bit)" = OEM
[OEMBootFiles]	[OEMBootFiles]
txtsetup.oem	txtsetup.oem
disk4.tag	disk4.tag
lsi_sas.inf	lsi_sas.inf
lsi_sas.sys	lsi_sas.sys
lsinodrv.inf	lsinodrv.inf
s2k332.cat	s2k3amd64.cat

表 A-3 Adaptec ベースの統合 RAID コントローラを使用するサーバーの .sif ファイルの変更

Windows Server 2003 32 ビット	Windows Server 2003 64 ビット
<pre>[Unattended] OemPreinstall = yes OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qllogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;\Sun\Drivers\.Lsi;\Sun\Drivers\smi"</pre>	<pre>[Unattended] OemPreinstall = yes OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qllogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;\Sun\Drivers\.Lsi;Sun\Drivers\smi"</pre>
<pre>[MassStorageDrivers] "Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller Driver (32-bit)" = OEM</pre>	<pre>[MassStorageDrivers] "Adaptec SAS/SATA-II RAID Controller Driver (64-bit)" = OEM</pre>
<pre>[OEMBootFiles] txtsetup.oem disk4.tag adpenc.cat adpenc.sys arcsas.cat arcsas.sys arcsas.inf raiddisk1</pre>	<pre>[OEMBootFiles] txtsetup.oem disk4.tag adpenc.cat adpenc.sys arcsas.cat arcsas.sys arcsas.inf raiddisk1</pre>

表 A-4 Intel ベースの統合ディスクコントローラを使用するサーバーの .sif ファイルの変更

Windows Server 2003 32 ビット	Windows Server 2003 64 ビット
[Unattended]	[Unattended]
OemPreinstall = yes	OemPreinstall = yes
OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qlogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;Sun\Drivers\intel\hba;\Sun\Drivers\.Lsi;\Sun\Drivers\smi"	OemPnPDriversPath = "\Sun\Drivers\ast;\Sun\Drivers\emulex;\Sun\Drivers\qlogic;\Sun\Drivers\infineon;\Sun\Drivers\intel\chipset;\Sun\Drivers\intel\nic;Sun\Drivers\intel\hba;\Sun\Drivers\.Lsi;\Sun\Drivers\smi"
[MassStorageDrivers]	[MassStorageDrivers]
"Intel Matrix Storage Manager driver (32-bit)" = OEM	"Intel Matrix Storage Manager driver (64-bit)" = OEM
[OEMBootFiles]	[OEMBootFiles]
txtsetup.oem	txtsetup.oem
disk4.tag	disk4.tag
iaAHCI.inf	iaAHCI.inf
iaAHCI.sys	iaAHCI.sys
iaStor.inf	iaStor.inf
iaStor.sys	iaStor.sys
iaStor.cat	iaStor.cat

8. Intel Ethernet ドライバを RIS イメージに追加します。

- オンボード Intel 82575EB ギガビット Ethernet デバイス 32 ビットの場合:
 - i. %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic\RIS_INF\elq5132.zip の inf ファイルを %RIS_Image%\i386 に解凍します。
 - ii. elq5132.sys ファイルを %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic から %RIS_Image%\i386 にコピーします。
- オンボード Intel 82575EB ギガビット Ethernet デバイス 64 ビットの場合:
 - i. %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic\RIS_INF\elq51x64.zip の inf ファイルを %RIS_Image%\amd64 に解凍します。
 - ii. elq51x64.sys ファイルを %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic から %RIS_Image%\amd64 にコピーします。

9. RIS サーバーでリモートインストールサービス BINLSVC サービスを停止してから開始します。

これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に Enter キーを押します。

```
> net stop binlsvc
> net start binlsvc
```

索引

P

PXE, 31

PXE ネットワークを使用した Windows Server 2003
のインストール, 30

PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008
オペレーティングシステム, 43

W

Windows Server 2003 オペレーティングシステム、
インストール
ローカルまたは仮想メディアの使用, 22

Windows Server 2008 のインストール
ローカルまたは仮想メディアの使用, 39

い

インストールターゲット, 8

インストールの作業マップ
Solaris 10, 16
Windows 2008, 38

インストールブートメディア, 6

き

起動デバイス、一時 F8, 9

せ

製品アップデート, vii

た

大容量記憶装置ドライバ
イメージファイルのコピー, 21
フロッピーディスクの作成, 19

と

ドライバアップデート, vii

ふ

ファームウェアの更新, vii

り

リモートインストールサービス (RIS)
ドライバの追加, 63
必要なドライバ, 60

